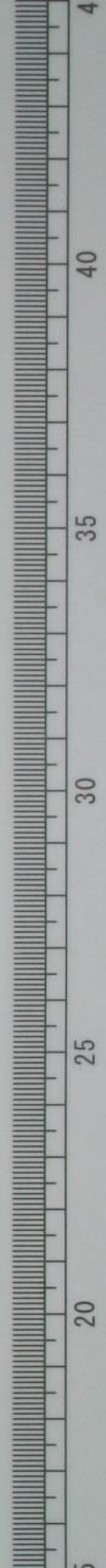




考古畫譜二

考古
398
2





考古画譜卷一

新や安部

荒海御障子

帝王編年記

弘仁九年四月

云是日有制改殿門號題額凡

大内賢聖并昆明池荒海障子等弘仁中各被施

画

建曆御記云弘廂

板九板北立荒海障子南方半長且長北面障子宇治細代布障子墨画也二間上御局

之際立昆明池障子間院無上御局仍荒海障子
厨二尺許為路立之南昆明池北嵯峨野小鷹狩

枕篋紙云清涼殿のうららみ此北画生る

帝さうらうをあらう海のうららみ生依との、此を



しける年長何一長をぞかきし生家

本朝画史云寛和帝好画藝曾以墨画車以濃淡墨作輪居多其運轉之勢如親見之寫手長足長之形

土佐系圖云越前守行光画手長脚但行光延文中人

古今着聞集卷十云また秋の戸乃前有流布さう

し我あらうし此障子と名起けて手長足長有どかた多うその子生うけは片治のあうをけり

清少納言が枕のさうしよの障子のともいふあり

一條院のあふ多うかく是あゆそ云いふの障子此



繪本ども鴨居との御倉まぞもあうし係建長造内

裡のとて繪所預前加賀守有房繪本とあきりしは

とりいふしつかたられり

本朝画史云有房姓氏未詳為繪所預兼加賀権

守建長造内裡時應詔欲画之然無旧本自鴨居

殿御倉出金岡画本以是傳有房令勤此役

土佐系圖云経隆初名有房

躬行按上件の系圖は有房を経隆のそとの名とて依て甚し記附會ふを経隆ハ尊果が縣の繪所預隆能孫中務女辨隆親男顯文極子高倉帝の景安頃の人とて然りは此あり七八十年のちあゆ後深草帝の建長の造内裏にあらむ正平年所頼とゆへ有房ハとて別人をあゆ論を後片又云画史に金岡画本とあふは永納の蛇足あり

朝餉間御障子

建曆御記云朝餉臺盤所方障子和繪御手水間
方障子画猫

禁腋秘抄云北障子竹ニ雀ヲカク桐ノ御控物
ヲオク氣ニ喰セジガタメニ猫ヲ画ト云

朝所古図

國朝書目載之

熱田社繪詞

名画拾彙云加納和泉能画享祿二年二月描画
重修尾州熱田社繪卷詞書者賢信也當社家

藏概要以下

画図品目云熱田社繪詞加野和泉筆

全社古図

類聚目錄載之

天稚房隻紙二卷

繪土佐廣周詞後小松帝宸翰
長井十蔵
上卷欽

類聚目錄云彈正忠廣周筆

倭錦云天若房隻紙繪廣周

奥書云詞今上宸翰繪土佐彈正藤原廣周筆

所行梅ノ類聚目六ニ七夕隻繪とあり筆者字不詳トハ此隻紙
のま五の石を依へく由然のよハ以物諸大名持神ノ須佐の

中納言教盛新中納言知盛能登守教經内藏人信基三位中納言盛修
理大夫經盛廊御方師典侍大納言典侍治部卿局十人像
貫雄云此像隆信朝臣の真跡疑ふ所から然るも志む俗手の
修繕を経て其真面目ヲ失ひてし事此諸峰縁起にいとし
躬行云類聚目六子平家盛哀繪長門國阿弥陀寺障子と記す体は別
小可あらむ其盛哀繪と名つる多ふなり一説にらん

阿佛尼庭訓

筆者姓名未詳

或云此繪巧有れとも古画子紛して後人の所作ありむ權大納言也
家に宣前但馬守平廣繁世在嘉州院四條司右美佐なり

阿彌陀佛像

一幀

展覧目錄云惠心僧都筆

梅尾高雄寺藏

赤童子像

一幀

本朝画史云忠仁公

深殿良房公

所画春日明神化現

赤童子今現在云

幕府旗本杉浦丸衛門尉藏

躬行云此ある童子と云ふものをみゆけなくも春日神のまうた
と云ふあり信傳徒等々別
或云春日神四座と載亦今も四種ありまんと
是七一作ありありいとあや

全

一幀

展覧目錄云惠日房盛忍筆

高山寺藏

阿字義傳

一幀

画図品目云阿字義繪寂蓮

類聚目六全之

名画拾遺云に叔父連始名俊長俊成御甥官左少将

後入釋門建仁二年七月廿日成丹青墨戲

貫雄云岡田若藏も文久二年四月京師ニ参りて再是をいふ子に叔
蓮の筆にあらむ書画の風衣冠の倅を詳ニ述りしを知らくは

鳥羽の上皇の宸翰あらむ巻標の送り箋も生れあらん
岡田有基あるいは冷泉有基と記も同くあり

阿字観圖 一鋪

倭錦云根来寺覚鏡上人筆

秋夜長物語 一卷

道北幸云秋夜長物語詞書をうけて寂蓮法師
の筆也繪を光長といひ川中へ生れとさうある

あらん但不在

躬行梅は此巻紙は西山の贍西上人梅若丸の筆よりて道心をおこせ
し物語ありて古物語類字林に應永の頃ありと作り出しとの
なりといへば又体さかきをいへば此物語は女は後堀
川院の内字は西山のせんさん上人とて云々と時代さかきを記し
るを其布代ありとゆふゆふくゆる僧の末生を前ありと云ふ長寛
文治の頃ありし寂蓮丈長は此物語の書画あらんといふ事あり

道凡朝臣の朗詠集のおくいとひはへし
但群書類從第九十一方秋夜長物語 一卷

鴉鷺物語

類聚目六載之

梅子一條禪門の鴉鷺物語を繪をかきし
統群書類從第九十一方有鴉鷺物語 二巻

朱乃盤

花鳥餘情千四百巻云朱の盤といふ繪七の語あり

文殊様れ目あり 鬼の事をうりり

芦曳繪 五巻

天祐集天文四年云武家草曳繪五巻借之

春村云これれはさかき書の繪本ありと云ふ也
此よりいられらん

紫綺球屏風 一帖

倭錦云越前守長隆画之

扇流屏風

倭錦云刑部大輔光信筆 有設色 或墨画

躬行云扇流は事は安齋隨筆といひの時々嵯峨の又龍寺の御成の時
子十童の持をばあかき風をとりせては月影ありありと一紋おを
しりしと告春の人の扇をかゝりし也其後五山の寺に御成
の時扇流しを屏風と名きてありし儀武のやうな能く御成を
られしとたつたる

秋野日月屏風 二帖

同書云土佐光吉画之

芦雁屏風 二帖

同書云源九衛門尉光則画之

葦屋釜下繪 一卷

同書云刑部大輔光信

模本貞書云右家藏釜切形十二東山殿御好下

繪光信朝臣筆也寛政四子年臘月十日土佐守

光貞模画

貫雄云此餘慈照院の命よりありて光信
下繪を以て造りし釜下に現たり

伊勢部

伊勢太神宮神宝圖

三卷

画圖品類載之

但紀州家藏本兩宮神宝圖五卷有著色云統群書類從目錄載
布內宮御神宝記外宮御神宝記合二卷

伊勢八幡神像

一幀

名画拾彙云藤原吉光駿州沼津妙海寺有其所
画伊勢八幡神像僧日蓮題贊志氣活動矣按京
師知恩院藏法然上人傳画卷吉光所画其詞伏
見上皇及親王公卿之書也是正和年間之事乎
蓮相隔三十餘年吉光壽考致如是乎

倭錦云妙海寺神像形部吉光筆

躬行極子口蓮石是生弘安五年化寂より吉光ハ正應正安中の人
かき八世代いづく後れ生後子あらは且吉光一年所画乃法然繪傳左
今知恩院子比ありに和州
當麻寺の奥の院子あり

石清水社再興繪詞 一卷

画藤原信義詞按察使前権中納言源俊實文化十年
三月作之

躬行云後小路俊資公権中納言有實卿男信義何人ありと
志ら凡官庫幕本あり

本社臨時祭繪 一卷

画工未詳 社本在二
官庫

伊豫三島社神宝圖 三卷

好古小録云古制考ルニ是ル

嚴島社神宝圖 二卷

好古小録載之

但近時嚴島名所圖會十卷刊行已流布于世上
在神宝圖五卷於其中頗佳也

本社納経躰卷并料紙下画

本社所藏法華経廿八卷無量義経觀普賢経心
経阿弥陀経各一卷平家一門集書卷標及料紙
所画佛像故事蘆手之類鑄金銀以珠玉爲裝其
莊麗實畫善美者也亦有清盛公頼盛卿兩筆法
華経八卷觀普賢経一卷俱不知画工
相國自筆願文畧云使奉納千金銅篋一合可保

置之於空殿矣弟子并家督三品武衛將軍及他子
息等兼又舍父將作大匠能州若州西刺史門人
家僕都盧卅二人各分一品一卷所以令盡善盡
美也

古葉子伴云右卷標画中法指光琳神豆と云々の西三卷あり其
是邦をしらん

伊豆社縁起 二卷

名画拾遺云本村彌三郎業画於東州永正十六年
三月繪伊豆権現縁起二卷今在般若院

石山寺縁起 五卷

好古小録云第一二三卷画隆兼詞果守僧正の事

四卷画光信詞實隆公弟五卷画隆光詞為重卿
佛刹繪詞傳ノ巨臂也

躬行按子繪所預右近大夫將監高階隆兼と春日殿記加茂宗双紙奥書
等より依は延慶元年中の人なり事論あり石山座王果守僧正は中國
相國公實公子應安中の人栗田民部法眼隆光と清涼寺融通念
佛繪詞裡書のみえて應永中の人二條中納言為重と尊泉分脈
子至徳二年二月十五日六十二才薨と記一刑部大輔光信は淳正忠廣周
男明應承正頃の人三條西内府實隆公は天文六年十月三日八十三才
薨なり然きは此縁起隆兼草創のち至徳以前子隆光弟五
卷を補綴し弟四卷ハ其後故佚ありきりウんを天文以前子光信
補せしものありむけり五卷の詞書と品目子果守僧正とあり
誤あり為重卿と云へし統羣書類從前ハ百十二次詞と云ふ也

今縁起補 二卷

画谷文晁詞飛鳥井雅章卿 白川少將宣信
入道有跋文一

躬行云是は白川少將入道兼翁文化の頃寺主此を添めし應一して雅章
卿此かを一詞書の有りしを合て新に圖を製して文晁と云ふしゆ

二卷をなして本編に補綴せられたる其図を専ら春日殿記本の
の古画より依りてとまき新意を出ししるる文品画力精絶實に
古人に恥ぢんと
いふべし

一 遍聖行狀繪傳 六條道十二卷

六條道場歡喜光寺藏画法眼圓伊詞聖戒法師
外題世尊寺經尹卿

跋云正安元年己亥八月廿三日西方上人聖戒
記之早画圓法眼圓伊外題三位經尹卿筆

應安二年乙酉仲月三日破損之間修補之畢于
時僧河

延德四年六月廿三日及大破間修理之干時滿願

寺住職覺河

画裡書云一遍上人一期修行画圖十二卷件画
圖者奉顯一遍上人之行德殊感六字称名之勝
利為樂中丹之慈念敬圖後素之新樣爰自北山
入道太政大臣家被召之間令進上之處所納之
櫃破損之間被納新櫃所被返渡于六條道場也
彼古文之殘壁底也遙傳絲竹之聲此画圖之納
櫃中也永得磐石之堅于時應長元年辛亥仲冬
上旬記之而已

後中内記享保二年六月十四日云六條道場歡喜光寺什物

一覽事馬腦石之十六羅漢之六條道場縁起十
二卷猶地也筆者行能繪者法眼圓印繪如形見
事成物也

本朝画史云圓印叙法眼画六條道場一遍上人
縁起蓋有十二卷筆法類宅間住吉其山川樹石
新墨円熟意趣有餘也

好古小録云六條道場繪詞住古ヲ考ルニ足
ル円印画カ愛スベシ但其図小ニテ詳細ヲ盡
シガクニシラレムヘシ

展覧目錄云六條道場縁起画カ絶倫とて將野

永納も是をゆめて筆力宅間住吉も顔も其山川

樹石新墨円熟よりて意趣餘ありといへり詞書の

筆者は寺家所傳ありといへり世尊寺行房朝臣

と見えたり

道々幸云六條道場より一遍上人繪詞をみ依十二

巻あり詞を聖戒筆より行房朝臣より繪は殊

に勝りしは依ものと見えたり樞の子は應長元年

此記あり

新行梅は此繪傳詞書の筆者は聖戒法師なる事奥書に明瞭なる
七展覧目錄には寺僧より一より行房朝臣と一後中内記より行
能卿と一は此留誤なり右中將行房朝臣は經手御建武二年三月
六日於金 目錄と家譜とのちて時代おくれ行能卿ハ經手卿此

祖又まて仁治元年十一月廿六日六十二才薨と分麻子又元生れは
正安の岡伊らうり六十年の昔あり但外題の事者経甲御薨年ハ
生れあらさきと延慶三年六十四才出家と家誘子記これ生れは
時代は相うあひ多心へしゆて後中内記を中御門内大臣宗顯公
の家記しあり
室也名光勝号一遍上人

人

四條通場廿卷

四條通場金蓮寺藏画越前守行光詞宸翰及公
卿合作

跋云德治第二之天初復上旬之候馳筆終功畢
好古小録云画ニ姓名不傳六條道場及藤澤道
場ノ卷ニ比スレハ其画精カラス固ヨリ画ニ
同カラス

展覧目錄四條通場条下云寺僧云繪越前守光行詞書

後冷泉院後二條院花園院宸翰轉法輪公忠公
同実量卿冷泉左亮卿画工越前守光行とよ
もの土佐系図子又えと行光の訛傳あらんされ
ど行光は延文中年中繪所預子被補生後自德治
は五十餘年也時代おくれ生れ入り画撮也あり
く行光とはみえを惣見ともいふこれ拙画と非
道此れ幸云四條通場へゆてりしよと一遍上人繪
詞世卷あり繪ハ越前守光行按行光の詞を後伏
見院後二條院花園院宸翰轉法輪公忠公同實

量卿冷泉寺秀卿といへり繪ありくとして見
所あり

倭錦云繪越前守行光詞後伏見院後二條院之化
園院公忠公實量公為所の卿

躬行按子後伏見帝延元二年四月六日崩四十九後二條帝延治三年八月
廿五日崩廿四花園帝貞和四年十月十日崩五十二大政大臣實重公嘉曆
四年六月廿六日薨七十中納言為房卿應安五年六月十日薨七
此かきく種流の製子年代相應せり行光乃時代のゆか後を
當はは吹年此作のやあむむさて展覧目六の後冷泉院とあり後
伏見帝此誤なり又全書ゆ此幸三條右大臣實量公を載せんと
公は女明六年十月十九日薨せられて德治の當時未生以前有れば
倭錦實重公とありを皇とて入し後押し内府公忠公ハ永享三年
十一月廿日六十歳せられは是より又德治ハ未生以前有れば誤あり
る

又云展覧目六の行光延女年中繪所預る神をらはと入はる本朝
画史より藤原行光経隆の子也住越前守延女六年為繪所とあり子よ
りより更文より七百八十餘年を経ぬへり又子二世として出され
三年曆ありしや画史の程謬常子如斯然見入延女神繪所の
説も又憑難し

全 藤沢道場 十卷

武藏國藤沢清淨苑寺藏傳云画民部卿法眼隆

光詞遊行二世真教

本朝画史云粟田口民部卿法眼隆光蓋春日繪

所也画融通念仏縁起我聞宅間住吉粟田口其

四人者春日画所也共住南都世業寫佛又

窪田筆力頼之

奥書云弟子宗俊宿因多幸而奉逢上人之濟度

得聞出離之要法思其恩德檢其報謝高於天厚
於海仍自建長文永之往事至永仁正安之行儀
國師資之利益備弟子之報恩類聚而為十卷殆
揚十之一二此中或有四言偈有七言頌或有文
之返報或有自之詠歌皆唯出離生死之所心性
生淨土之要路也至臨々訂者記錄頑魯之領解
更不話賢哲之後難苟思其事實不好其事華唯
欲見者之易論聞者之深誠也將又遠傳於遐
代近書及未終一部之書寫安十卷於通場若
依此繪國有發心之人者幸去娑婆域同到安艱

樂邦而已

函裏書云此緣起箱能登越中加賀三國大守源
朝臣正三位中納言利光公遊行廿五世之時御
寄進寛永六年正月吉日
好古小録云画隆光詞二世遊行圖六條通場所
藏ト同シカラズ画カ円伊ニ及バス

類聚目錄云藤沢寺縁起民部法眼隆光

倭錦云藤沢遊行縁起画吉光詞二祖上人

貫雄云此縁傳粟口法眼といひ傳へきれども実は吉光筆あり
詞書二世上人と傳へきれども之の子ありし條也の有り二卷より四
卷より兼空上人五六卷別筆七卷より十卷より吉光筆あり
別筆誰とせしむらん

躬行云以画傳眞書より依子宗俊親しく一遍僧の化度を受し所も
不まあらは正安の作あは事論あらはへし然依時を民部法隆光
ハ應永年間の人あは事論しか子して時世後を老れば寺傳は誤
あはへし傳錦子正安中の人あは事論とをそかあふへりむ

合

藤沢寺新画傳 十卷

清淨光寺傳云東山院御寄附外題聖元院宸翰
画自一卷至四卷飛鳥井中納言雅豊卿自五卷
至十卷堀河康致朝臣詞近衛棋政家照公葉室
從一位賴孝卿德大寺内大臣公全公東園大納言
基長卿鷲尾大納言隆長卿石井中納言行豊
卿冷泉中納言為綱卿愛宕三位通晴卿阿野中
納言公緒卿攝命中將隆成朝臣冷泉三位為久

卿園中納言基香卿堀川中務大輔康致朝臣石
井宰相行康卿文野三位時香卿中山大納言兼
親卿平松前中納言時方卿風早前中納言實種
卿飛鳥井中納言雅豊卿醍醐大納言冬照卿今
出川内大臣伊季公敏法院克延親王集連備前
空山景

寄

塩尻七卷云今此遊行唯稱上人丙戌の年京師に
あり内へも時々召きて家一遍上人の画傳より
より物をも言葉俗より好く違ひありは此
考ひ初しと画之勢鳥隆長國記と諸家の能書廿七人

子余して葉子あはれし七月の初成切きし一は
即唯稱子生海の八月廿三日祖忌を修して世四
京師を立西國に下向也

新行按ては藤氏新繪傳れろの聞えて丙戌の室永三年あり其
画り記の名もきりい書年のぬのいをくお月記を傳聞の證を處へし
且五つありと記し一教皇隆長卿八年う記のころちみえきりし
は繪傳新とてや子旅行中己隨身をなよしあふ子色年のいほこ
の旅ゆみてり次ありて新繪傳を在るを本ぬと或人のいへり
如他倭錦は藤氏別繪傳筆も未定とあるを此新繪をいへり
也詳
ありし

全 市屋道場藏

洛下市屋道場金光寺藏書筆者不詳或謂詞書
世尊寺行能卿

躬行云僧一遍伊豫國人河野通信弟正應二年八月十日化せり從三
位行能卿八仁治元年十二月廿六日薨せ上人より八先輩ありを
は誤あり
市屋道場在六條區少路近世移于五條南上愿寺中

全 錦小治天神社藏

類聚目錄云平安錦小路天神社一遍上人録起

繪不記筆者
姓名

全 四卷

洛東御影堂藏補足縁起画工未詳
能画也且缺
本無詞書

全 異本

繪住吉豊後法橋訶兼空上人頓河法師西筆
記

倭錦云一遍上人縁起豊後法橋

躬行云豊後法橋世系考に於て倭錦は巨勢氏康安中の人と云
れども詳あらぬ所ハ文中元年ハ十ヤノ叙あり

因幡堂葉師縁起 三卷

好古小録云画光信書尊應准后晋廣院殿寄附

本寺修行所藏也又桃坊所藏ノ本アリ書宸翰

画光信ト云疑ハ摸本ナラシ

倭錦云因幡堂縁起筆者未定

躬行云尊應准后一傳横政待基公男承正十年二月画光信同時の人あり
但官庫此縁起上下二卷抄寫して一巻と云り訓清は右實秋御
西園寺殿
而筆下と記あり

全 一巻

擁書漫筆云因幡葉師繪詞一巻有り詞を後醍

醐天皇の書さるる人依れりといひ傳ふ天明年中

△火子ありて縹紙ハヤギをこれと全体をこそ因幡あり

画を詞も考古此便ハそれハ八子寺あり好古小録子

三卷画光信書を尊應准后といハ依り此縁起一ハ

凡此巻近寺躬行浪花の書画鋪子得て其筆ヤリ
ヤギ子巻子の上下焦をこれと書画を皮ハカ

伊勢物語 二巻

画図品類云伊勢二巻古画也筆者不知

古物語類字枚云水野大監物殿秘藏子此物語

の繪二巻ありて書画と云子誰ハ筆と云知らぬと丹

青筆意微好一よそのなり

小宮閑誌録本云伊勢の繪は慶長十三年二月

中院通勝卿印行の時画を入りふり一奥書子見

元あり

躬行聞此水野家の本普通通の初ら十九年伊勢將傳のくきりしを和段とせりと梅の鳥丸光慶卿の真蹟伊勢物語云抑伊勢物語根原吉人の役と不同なり又或説は後人以將傳事改書此草子之端一書此伊勢物語通和也件本狼藉奇怪者也伊行所書也不可用之此伊勢部尚書押とありなり伊行所書とありは教鶴林作者宮内大輔世尊寺伊行朝臣といふなり

今 三卷

画工未詳詞世尊家行伊御

摸本奥書云右伊勢物語之繪詞三卷行伊若年

之筆痕也寛永丙子小春上旬亞槐藤光廣

此伊勢物語三卷繪士佐九近將監光長之遺筆

由書證其真識其後將野右京進安信

躬行云画師光長は月輪殿の手海子載して兼安頭の人且九近將の画に任せられしと聞かす此と稱するも不審あり世尊寺行伊御ハ貞和六年正月十四日。亮す光長は信より事

今 二卷

倭錦云法眼如慶画之

貫雄云此他如慶具慶所画の伊勢をの誌大小色紙の數極多世上あり

今 色紙形 一卷

画工未詳本在二

岩屋物語 一卷

本朝画史云婦人一位飛鳥并宗雅之女也能画
画岩屋物語事實書其詞

續群書類從中五百七有
岩屋草子一卷

犬進物圖 一卷

類聚目錄云犬進物繪右近將監光茂

亦云天文十九年五月六角辰形義秀依命土佐
刑部大輔光茂於江州觀音寺城画之

画図品類一本奥書云正徳二年八月以住吉内

藏元藏本画之君美 貞大云亦式有大繩十倪此圖
不画不能蓋遺偏字

春村云夫我所画の横舟
を是依と刻書あり

今

本朝画史山梨傳云間古老所話依木初圖犬進物

式或画騎法七段皆流播於世

空屏風 一帖

画図品目云犬進物画屏凡夫茂 依錦

其本有夏筆云品川妙海寺妙解度子犬進物屏凡あり画之姓名不傳見
と云能画あり光茂画より此圖古ゆあり是細川家寫附の此の
あり也

一谷合戦繪 一卷

類聚目錄云刑部大輔光信筆 画図品類
海錦目

生田敷盛繪詞 一卷

柳道閑正書画一筆 長七寸餘之小卷也 故西村宗光藏

貫雄云曾看一本於古筆乃伴家画二の作子ありん詞、楠周筆と古れ白てあり元来四年本を卷子ありとの有り

家康公参内繪詞 一卷

画狩野法眼探幽詞鈔法院竟然親王

奥書云右詞書鈔法院二品親王竟然深毫也画

画狩野法眼守信之所描也去後來龜鑑加去虎

兔而已慶安二年臘月十七日昆沙門堂大僧正

公海

宇部

宇佐行幸圖 一卷

画圖品目云宇佐行幸圖 品類

全祭儀圖 一卷

画圖品類云宇佐祭儀圖 一卷

雲圖抄 二卷

右衛門権佐藤原重隆撰 有裡

奥書云此書者故都護納言古藏人頭時故右全

吉被抄書云此草傳在此家而去年依不意之事

文藉紛失之間已為其中雖為寸餘不肖之身猶

有愚忠奉公之思彼正奉金吾御自書傳在故前朝隆
納言之許仍所借請侍中朝方左司郎也寫圖書銘于
時永曆寂初之年無射上旬之候也近代識者之
家以之為明鏡云云規模而已未葉尤監門負外
將軍長秋內給事藤原為親押署嘉應二年仲春
之頃以右中丞脚本寫之畢子細被書載仍所寫
留也工部尚書藤原親雅押

羣書類從本跋記云右雲圖所者鳥羽院御宇被
察中納言顯隆為藏人預時所命其弟右衛門權
佐重隆抄出也後敬逸獨藏其姪權大納言朝方
家右中辨為親者朝方從父兄弟也因請寫一本
於其家今刻者蓋為親真本云

春村云重隆也元永中卒其尊界分脈子み又をれを鳥羽院御宇盛有り
しこと一依り顯隆は一代要記に永久三年八月十三日神藏人預
と云えん公卿神任に元永三年正月六日叙從三位元藏人顯とありは電
圖所ハ永久四年の撰出來りハ事必宜也抑此重隆も裝束司と云
勤仕をられし感へ其所為ハ此雲圖抄のしあらに裝束抄を
作せりしと云ふは其部秘抄に安四十三に寛治家記依并官着布
袴之由被注之云加之重隆裝束抄殿上佐辨頂着衣冠寛治依并辨
官着布袴之田注之と云えたり秘訓に民都江經房ハの云記の抄出
也經之房卿ハ其房卿の云ありは重隆は大伯父あり寛治家記とあり
左則其房卿の記あり因云先輩雅亮抄を裝束抄の祖と云月え之
あり前此重隆裝束抄ハ在帝をいりた世間子知人ありし故を
後世傳本有し依り云へし

太素太子金龜龜繪

新行云本朝書籍目六雜々雲圖抄二卷大納言朝隆撰と記し
群書一後にも朝隆卿と云ふと云ふ誤あり

倭錦云太秦太子龜麻呂傳蘇我馬子媯子像公望
筆

展閱目錄廣隆寺 條下 聖德太子麻呂繪寬文年中自性

院先住如全再加後復近來寫子作意もかり生

故や心據りあり難し

躬行云蘇我馬子媯子傳士學架
惠恩寺四人の像あり 思一本意とあり

太秦牛祭繪 一巻

類聚目錄云麻叱羅神祭圖住吉法眼筆

真書云右九月十二日太秦廣隆寺牛祭々文也

惠心院源心僧都應永九年九月十二日夕書之

推書漫筆云此年考より源信僧都の時々あはれは僧都の
作らりし文を用ひて年毎々年月此しを書改免つ家なりといへり
此後然悔へし但近年岸本
由臣ノ原撰刻りあり

宇治拾遺物語 三巻

倭錦云住吉如慶画之

産屋乃繪 一巻

画図品目載之

押産植筆子産屋画病変紙の残缺もや無刻と云えを此と梅子病草
子は一病一飯ありて連続す故もの多く且平産を其病とを信うり
ぬれ信光の没る付
如き 如ふへし

浦島変紙 一巻

画図品目云浦島変紙書画筆者未詳 品類

全 一卷

鑄龜島井入道宗雅女一位乃訓後柏原院白富

内侍

函裡書有高野山無量壽殿得仁押之石山卷也
在去廣尚堂是故西村宗光藏

全 殘欠一卷

後土御門院白富内侍書画一筆

長五寸許之十卷古筆不詳筆堂
墨極極家所藏但下卷逸

梅津長者物語 二卷

画圖品目云画二姓名不傳

画圖品類云四卷画二不傳

山崎知雄云所藏本貞書住吉内記廣陸筆之何
梅子此物語二卷全端のその二画様おらるは只慶・筆からん

歌ノ意之繪 一卷

画二姓名不傳粉本在官庫

馬圖

三代實錄貞觀十年十二月云九臣從二位源朝臣信者

嵯峨古上天皇之子源氏中一郎之大臣率性強

雅風為不雨好読書傳曾嘉草隸又二画画丹青

所画形画真

全

本朝画史云後京極棋改諱良經九條兼実公子

也奉仕土御門院棋政歲廿八歲吟詠之暇好畫
馬形丹青諸家皆服其妙時人稱曰普賢寺殿之
後京極殿之馬稱爲一獲名手事見于駿牛繪詞

全

本朝畫史云鳥羽僧正覺融源隆國子西宮右大
臣高明公孫也出天台座主法勢及三井長吏大
僧正住醍醐又居鳥羽故号鳥羽僧正專畫倭畫
善人物自爲一家寫意不求形似云又画馬形極
其神

躬行云鳥羽僧正字治大納言隆國卿九男保延六年九月十五日己亥也
年八十八隆國兄大納言俊實兄の子高明公の孫也

全

名画拾彙云後陽成帝嘗御畫六馬於一板上揭
清水觀音堂筋脊駿逸大有生意衆拳嘆伏其神
妙

全

名画拾彙云後水尾院御画殊清爽有活動僧宗
彭詩集云後水尾上皇画馬圖水墨淋漓未乾
宣和盛事照心肝天機已到誠天步于虞華騶跳
筆端

牛画

本朝画史云善賢寺根政諱基通近衛關白基實
公之子也奉仕於五朝而根政於三朝一歲七十四
薨遊上藝惟多殊工書画曾画牛得其精妙

既古國屏風 一双

官庫藏粉本画工未詳

衣部

江島縁起 五卷

書画筆者未詳相摸国江島辨賊天縁起 下防所藏
碩鼠漫筆

云當本院
藏

新編録倉志云江島縁起五卷詞書作者不知繪

ハ土流ナリ

貫雄云此縁起原本は既く失なと云ん現存者亦その中志の模
本肌らんとは吉弘貫いへりま
新行云丙寅四月江島よそのき一帝此縁起見ぬ日くして人して下
坊まにとのめ内を一一と答けらくは年若本院と事を争ひて同江所子
初へまを一一と成り便宜はなして此縁起字奉行のまとは死て出
々むやうそとめおらぬまはゆとま火取てこれ奉行の館也付
ぬ原を成ち縁起も灰燼と有りぬとソハおこしはいとあきらし
ろくちをくろく記そち此縁起隣倉此未の頃をとい傳死け

んとおもはるゝ口氣こそ源光行北草あらんとおそもあゝ文藝を
りと春村翁のいへく死後出島とありは島明神のありは此処を
と朽く久しと申すより年賦天の冥場を家ありまか死を
きりては吾妻鏡卷十七建仁元年六月一日寅刻左金吾卿参江島
明神と又卷十四建保四年正月十五日相摸國江島明神有詔宜天海
忽變道路仍考治之人無他之煩始自鎌倉國中縮上上下成辭
神以未代希有之神者也三浦右衛門尉美村為御使向其冥地令考
嚴重之由申之と見えたり是より以前同書 卷二卷和二年
四月五日武衛令下出腰越中江島に詔云は是高雄文覺上
人為祈武衛卿願奉勸請大辨天於此嶋始行供養法之則
故以令監臨結密議政事考調伏鎮守府將軍藤原秀衡也云は
とあるは并賦天の養北に覺れりそのやぐりさありは
いましと人ともあれあるとば明神をいをたらし隠れいもてお
いぬをこそあさみしとれい川にもかゝるものいぬくそ

叡福寺繪詞

殘缺一巻詞佚

好古十録云画法伴大納言繪詞ニ似タリ山陵ヲ造ル

圖アリ古色可掬叡福寺繪ト云是非ヲ知ラス

新行云叡福寺河内國石川郡太子村に在世俗上の太子といふ以画卷
字三子子既太子寺といふ一嘗て以繪古卷を見を詞いとやく供

延曆寺繪詞

一巻一名天狗草紙

画刑部大輔光信詞筆者未詳

奥書云此延曆寺縁起一軸ハ土佐將監光信画

圖 妙非庸流之所及也遂授筆解他日之惑云

寛文代申年陽月下濤将野法印探幽

新行云此卷光信と云は依是の詞にて倭錦と越前守行光天狗草子
五卷之中庵山醍醐の一卷詞書青蓮院通道親王と云は依是の是か
り當之見く此卷及東寺此卷明治十年秋官物となりて
博物館にありたり

江戸廿二繪詞

画図呂目云享保年間之圖也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

於部

陰陽寮日月圖 一卷

好古小録云寛正二年九月権大僧都竟忠傳寫
スル所也世人紅表寫之傳ルヲ日月ノ始トス古昔
スラニ此圖アリ

鬼間繪

建曆御記云鬼間南壁白澤王切鬼繪

禁腋秘術云鬼間南壁ニ白澤王鬼ヲキリタルヲ書

夕リ鬼ノ間ハトリ丹障子ナリ

古今著聞集一カチ生鬼洲乃カベニ白澤王ヲ書キ

身衣をばむうし可此間子木子の住け衣を鎮めら
れり家仲傳子かきき家こまはまうし傳へをれ
りたしか家様をうらま

真俗文談記云鬼間繪事人不見之光年相尋繪
所之處因辭申終不顯其繪様如何為長云凡此
條自古至今雜聞鬼間名未見其消息之秘藏故
欣然存人む稀也不可言上之由辭申賦目於西
卿親經資實同辭之予自答云鬼王三面三日有
一前其色赤色也間良方画之如逝去勢又勇士
一人提劍如追鬼王顧勇士走形也此時為長云

朱雀門鬼者鬼間王所變也其彼鬼青色一面也
長谷雄記有之云青色異説也後可決之

大原繪 六卷

高野日記云隆信朝臣の大まらぬ國六卷新色
華のまそみとあつり処にけ詞く記回華ありあつり生
まそれ文字ありあつり記をわ記法性寺との御
葉ままうあまうり子侍りしか家をばうひいませ
みみえん世のへきては家ありぬ母とまいとくあ
ゆしありけくまのみま金家寂光院の新坊を
見もれ向

躬行極み大日本史云前関白大政大臣忠通長寛二年二月薨世称法
性寺關白性謹厚喜温不形于色工詩歌能書晚年書法精妙自成一家
家称性性寺様と列傳にみゆ隆信朝臣は正四位下右京大夫皇居
宮少進為隆男元久二年二月薨す

落久保物語 八卷

類聚目録載之

画図品類云八卷画者姓名不知 十三原 家藏

大ゆほの車

古今著聞集 卷十 云後 吳手親王 中書王雜仕を寵受す所

おもき侍ひて土御門右大臣はまろけ生海ひらふ

ありあさ中ふ是終ありまろ侍て愛しぬふをかし

りぬうりより月此のうりよりぬれは伴のゆり

具一坐極ひて遍照寺へおひりまひたりゆ海まら雜仕

毛の子とられて失ふより中書王歎くぬれとゆふ子

三程をふもす記生るおまひあまうて日頃あり生海より

おたらへは我御身とうをま一人と此中よ此見をれ

おてみま海へ形を車れ毛のこの表を繪よりたて

御寛こりりよ海ゆと子寛治の中殿の御作文ぬぬ

りぬいてそのくる海を陣子生てられ昔海月と子物

見おちまうけ海を牛うい生川とてあやまちてうら

をたもて子生てよりありあら生のらりしぬくして

みおほり海の車とて此りの入海は此中へまもるる

申傳生

大江山繪詞 二卷 一名酒顛童子復紙

古物語類字抄云下條因香取社大官司所藏の本は詞書兼好法師画工ハ誰れらむ尋ねし標題大江山繪詞と有といへり

唐取人伊能頭則云本社蔵二卷之標白筆地錦軸表祖無表題書画筆者姓名不傳詞盛衰記手家物語本の口氣にて大平家よりはふら
元信筆といへば是れは詞と追俗にて
此より別本あり

全 三卷

画図目目云画狩野元信詞上卷近衛植家公中
卷前大僧正公助下卷青蓮院尊鎮親王因州家蔵

西洞院時慶卿記 慶長十四年六月十四日云酒吞童子草紙読

懸全十酒吞童子復紙読果ル

躬行云元信永録二年十月六日卒八十四植家公永録九年七月十日
歳六十四尊鎮親王後柏原皇子公助僧正の受法皆時代合ハリ
又云時慶卿記に記を如何に本よの知る生一但元信の本は一
帝の正曆頃の事として近江国伊吹のおく子大江山千丈ヶ山獄
のれ童子すまめゆ
ありをりけり

全 三卷

画狩野守信詞筆者未詳

全 新古今各三卷

倭錦云酒顛童子双紙左近将監先起筆

舟員雄云先起画三卷注吉廣行依古圖補三卷
合当三卷

音無雙紙

一卷

畫者姓名不傳詞書青蓮院尊鎮親王

真書云元祿十三年孟夏中澣之比添筆記未昂

春秋十
九歲親王

加部

春日明神驗記

廿卷

畫右近將監高階隆兼詞書第一二三四五九十九十二

十三合十卷鷹司前關白基忠公第六七八合三卷同撰改冬平

公第十四十五十六十九合五卷同推大納言冬基卿第十

七十八合二卷一乘院良信僧心

驗記目錄

關白冬平公真跡

第一卷

詞前關白

兼平詭宣事 竹林殿事 金峯山御幸事

第二卷

詞同前

寬治御幸事 永久衆徒鬪乱事 二條關白事

第三卷 詞同前

堀河左府事 麻島和哥事 信經事

第四卷 詞同前

天狗参入東三條事 永久春日詣時神託事 普賢寺

棋政事 後徳大寺左府事

第五卷 詞同前

俊成卿事 季能卿事

第六卷 詞同前

拍行光事 親宗卿事 蛇吞心經事

第七卷 詞同前

經通卿事 開蓮房夢事 近真陵王事

隆季卿家女房夢事

第八卷 詞同前

清凉寺本尊事 依唯識論功能遁之病難事

增利僧都事 愛和僧都事 法藏僧都事

離寺僧蒙神託事

第九卷 詞同前

祈親持經事

第十卷 詞同前

林懷僧都事 永超僧都事 教圓座主事
教懷上人事

第十一卷 詞同前

惠曉法印事 永万夢想事

第十二卷 詞同前

藏俊贈僧正事 惠珍夢事 思覺事

第十三卷 詞同前

晴雅律師事 勝詮僧都事 增慶事

第十四卷 詞推大納言冬基卿

唯識通火難事 隆覺僧正事 豐房事

唯識論安置屋通火災事

第十五卷 詞同前

唐院得業事 教英得業事 大衆院僧正事

紀伊寺之事 清增事

第十六卷 詞同前

解脫上人事 障円事

第十七卷 詞良信僧正京院

明惠上人事

第十八卷 詞同前

同事

第十九卷

詔冬基卿

正安神鏡事

第二十卷

詞日前

嘉元神火事

繪右近大夫將監高階隆兼

繪所願

詞前開白父子四人敬神懇切之餘為結緣不可
交池華之由所被約諾也於篇目者覺田法印注
出之日相談西前大僧正

慈信
範憲

予稟於藤門之末葉專仰當社之擁護不耐敬神之
懇志去諸人之仰信大概類集之逐猶切瑳全可

書加者也凡企此懇志之後家門觸事有吉祥爰
知相叶祖神之冥慮欲後輩誦可抽敬神之精誠
而已

延慶二年三月日左大臣藤原朝臣

押署

葉名本具書云春日驗記廿卷故向勸修寺家
より朝々奏し一切神庫を出るを中流さ
素より模寫の存勸修寺家の如く更に無之事也これ
ら此事定らざる前田安部屋刑にて近衛家へ懇
願し即ひて不誤模寫せしめ然れ融の生めよ
島有とある所これより再而企あつて又近衛家

懇願し上十卷所より模寫出来しは黄門尹かく
きひいてより終り中絶其後に至神庫不出の規定
出来して企むべし然るに奉り成生家を以勸修寺家
より鷹司副白とのへ訴へれより御気色を實伺を
れてはいし模寫の免許を得年月を積りて廿卷成
就後世能く秘藏をへきものや文化四年七月廿四日
右近衛少将兼越中守源朝臣定信識

好古小録云隆兼画力精好微物ト雖苟モモ古今
繪詞傳數種有トイハ氏考古益アル此驗記ニ並者アラ
ニ年中行事ノ画ト伯仲ス唯識者ノ偏熟覽モ事不
能ク遺憾トスヘシ

土佐系圖云文永年中隆兼号土佐隆親二男画春日社

驗記

躬行云桑名本奥書也梅屋は此卷子一旦は勸修寺に有なりしを
其後鷹司家轉りしや春日社司富田大親守中臣隆兼連光云此卷故あり
て安永頃より世上に流轉し此いし鷹司家の蔵とあり又
此のころ本社神庫をせしめらるる傳は隆子十五十六十九の三
卷敬愛して尾州家の蔵とありといふなり其後又和志卷和
志三卷三ツけて今は十四卷とあり文化四年桑名模寫のり
全備の毛のとありしを志あらはれ目と子かく缺本とありぬ
尚ほ城一むし提す
又云隆兼は此目錄の元法加多桑模本奥書等子ありて延慶元年
徳中の人と正人なる論ありしを志す上り春日系圖ニ隆
親二男文永中驗記を画くとは何事や驗記は延慶の撰りて
文永には隆兼未生で前あり況隆親は保延頃の人なきは延慶の
撰りて猶も十餘年なり是久しき事なり
明治八年鷹司家全部を官に献さらば即賞金五百円を以て

倭錦云注吉法眼慶恩画之明惠上人所寄附於
七所灵場也

新行云明惠名高辨寛喜四年五月十九日此
住吉慶恩の事は灌頂卷の上よりいふべし

春日飴馬圖

類聚目錄云飾馬圖春日神殿所画

三柙庵隨筆云三條院乃御時子画也一云のこ云い

(一) 卷八ノ下

新行云伊勢貞夫春日社飾馬圖若此繪後三條帝此御宇
子所画のよ一み遊三條帝ハ誤りなり

春日住吉二神影 一幀

本朝画史云宅間澄賀梅尾高山寺有春日住吉

二神像云但其説未証
不堪誠干此

鹿島之御岳跡圖 一幀

類聚目錄云普賢寺開白筆

春日社司
野田某藏

新行梅子此圖を世々あり春童子の類を依へし本社司野田氏
但野田は春日山下ノ地をあり

鹿島祭繪詞

画圖品目云鹿島祭繪詞 帝陸國鹿島社
大宮司家藏也

新行云此繪初本社大宮司中匠麻島連則孝子繪其力也
此物初ありあり云々傳聞を依新行といへり春日慶應元年九

月八日ありは早く
社中と敬失せしりや

鹿島神指圖 一卷

画鬼形初本社在官庫

香取社神殿圖

一鋪

香取志云大祢宜家祓藏之於正殿圖あり寂古くして其始をいへば常憲院殿とて之を有し其圖の毀損を惜まず其四式を倣ひて一圖を造りし下賜あり大祢宜家藏之其奥書云下詔香取神祠制度圖大祢宜家之所藏也蓋自古之所傳而歲及千年云然未詳其所始也已云又修補其圖之毀損且倣旧式別制一圖而為之副蓋欲示諸將來以傳永世也因書其後以藏之云南元祿十三年庚辰秋九月日香取神祠大祢宜讚岐守

亂雪謹識

全社神幸圖

新古今各一卷

跋云至于永德年中如此御神事無退轉者也右件於目錄者以建仁二年帳至德三年改誌者也然者又依虫食損以至德三年之帳當時任其旨改錄之處也尤可為後代之證據故也仍如件永正十三年八月廿一日寫之畢安主田所録司代大祢宜敬位大中臣真之

新圖奥書云右御幸圖者古之所傳也蓋其神輿之出儀列之嚴因祭祀之大者而就其圖亦可見

盛矣至德年間猶有行之其後弛矣今以其圖之
毀損官教補修之又就其式樣別造一圖為其制
各為三卷軸云昔元祿十三年庚辰九月日香取
社大祢宣讚岐守胤雪謹識

賀茂祭復紙

一卷文永原本
群書類從卷第十九收興詞

名画拾彙云法性寺為信卿

始名為行伊信入道
男從三位刑了卿

龜山院文永中繪合之時画賀茂祭復紙一卷詞
世尊寺定成朝臣書經業卿所調進也

全

一卷元德摸本

真書云此繪龜山院即繪合之時經業卿所調進

也云画者信卿詞定成朝臣書之元德二年閏六
月中旬之頃令寫之繪所預隆兼朝臣詞入道内
藏權頭季邦朝臣寫之

本朝画史云隆兼有和茂祭幞子画後書曰元以
信卿筆寫之

好古小録云幹常ヲ展翫スル前後六七頃對ス
ルコトニ結構及画圖ノ不凡ヲ覺ユ且隆兼所
摸ニメ隆兼ニ似ガ隆兼摸ニ於不用已ヲ見ル
ハニ原ト相比セハ出藍ノ勢アラシモノナリ
遠碧軒記云弓削屋ニアル賀茂祭卷物隆兼筆也

全 一卷 元禄新寫

好古十録云新撰本元禄七年閏五月画高階定
信詞沙門且生此模本吐く真ニ通ル戊申ノ火
後所在ヲシラス可憐

全 一卷

倭錦云真家信法印画之

全 一卷

同書云春日行秀画之小卷也今在河波

看聞脚記永亨六月十月廿五日云自内裡繪六卷被下御室被進

行幸賀茂祭檢非違使檢断等繪也日十一月一内裡

御返進

按此縁起ニ識されき原はりとの本あり正画工の右也
見えぬ心内をあらわん勢ニテニ録也

全 異形加賀茂祭一卷

田中訥言依文永賀祭草子之次序新製妖怪行

祭儀之図一局上無詞書号異形賀茂祭図奇異出

意表可謂逸作蓋聞所進妙法院宮也画稿一卷故高島千春蔵後出

峯母内藤家蔵

上賀茂社圖

國朝書目載之

寛平法皇宸容 一幀

傳云金岡所画

粉本在
官庫

鴨長明像

一幀

刑部大輔光茂筆

金澤文庫肖像

三幀

相模国金澤文庫藏武藏前司貞將修理大夫貞
顯前越後守顯時肖像画二姓名不傳

冠帽图

全画图品月載之

泉器图

画二未詳多画名物器

漢書御屏風

江談抄云故右大辨時記談曰諸御屏風等有其
數所謂漢書打毬押元錄變相画寶聖山水等御
屏風之類是也隨時主之委事見裝束司記文欣

鴨毛屏風

十二枚

在東大寺正倉院中

勅封之文庫謂之
正倉院又三倉

外記日記

康應元年五月鳥羽法皇
東大寺御受戒之際

云六日戊戌早丑開

勅封倉御寶宝物昨日俄有議召遣辨一人藏人
左中辨源師能大盜物藤時負善隨身鎰參向

有印字
櫃也

鑲相法類刻不得開有議切高畢宝物之

中聖武天皇玉冠及鞍御被枕碁局算竹簫八等

其形如壁王右軍息毛屏風侍臣等運置之件屏風有

良田讚召判官代高階通憲令讀之

好古小録云鴨毛屏風今存スルモノ十六枚中

一枚天平勝宝三年十月ノ八字アリ千有餘年

ノ画実ニ可賞

展覧目録 東大寺 云三倉中数十准又ありといへる元

禄六年三倉開封之時省修補取出をその書画数

十枚有之

斯行安子ノ良田賛と云は種好良田易心得設君は良田忠易乃至聖一
誦詳之詳多悦會借正直之言倒心逆耳正直君心神明所祐福福也

門唯人所招父母不愛不孝之子明君不納不益之臣清分良長兼潔濁富恒

憂孝當竭力忠則盡命君臣不信國政不安父母不信家閨不睦「四言四句」

是あり此歌を光明子比りし屏風銘といひ又右軍之書と云ふあり

天平勝宝ハ歳乃献物帳に記されぬは後人の蛇足あり依りてあり

抑鴨毛篆書屏風六扇其銘ハ主無獨治臣有賛明近賢無過親レ後多

惑任愚政乱用哲民親歲規為納然悔不生見善則遷終為聖德明君

致化務在得人「四言十二句」其製ハ料紙ニ綠青点滿地「綠青ヲ点す」淡絳占

「初の胡粉を点し上ニ少シ朱点ヲ加故淡絳色を成せり」乃二種あり前の主無獨治

等ノ文を每字篆楷二様ニ連ね書出鳥雲草木水石ホノ文様と云ふ

白文ニ塗染し篆字ハ墨ニ鳥毛を双鈎ニ貼し面らしそのうちを姓文あり少す

鳥毛を左右ニ番いて墨画ニ立すまは横画ニよぶまは貼まは鳥毛の双鈎を

黒紡にて神いき依り處あり後人の神綴をらん然して楷字を鳥毛を貼すに

老淡綠青を依り字中鈎ハ朱點をのまなく折料紙談鋒を依り字中

綠青を時ふか如く塗り其上又朱點をいさか加へまは四言一ノ句

篆楷各四字を一行として一行を八ノ字一ノ扇二行十六字その中扇

ハの字のいふ飛雲鳥獸山水草木等の文様を白文ニ現はし又

種各色の料紙ニ上れ良田賛を楷字のいふ書如字中よとの如く鳥毛

を貼し画をすものハ六ノ扇あり是則鳥毛文書屏風として外記日記ニ

義之の書とせしものあり「此鳥毛屏風合テ十二葉のうちニ綠青地朱地
各三葉鳥獸草木等を画して繪ありもの六葉ハ後人の修繕ニあ

此の上部の献物帳を換はす屏風一白疊のうち鳥毛篆書屏風六
扇高五尺廣一尺八寸紫綾縁赤木帖黒帖黒釘碧絶背夾纈絶接扇
摺布袋鳥毛帖或文書屏風六扇高五尺廣一尺九寸紫綾縁赤木假作班竹帖
黒釘碧絶背背黄纈纈接扇摺布袋とあり其裝潢大うま換はれ
と此西種を換はす去依一展覧目録三倉中ニ屏風數十隻有と記せ依
は訛傳なり人鳥毛屏風六此二種の外は献物帳ニ鳥毛立女屏風六扇一今を
存せを見えて都て十八扇初のより数枚のり花のありは今本院中屏
風の木幅及屏風の貼一担麻布野くひきと現存を換はれ帳ニ麟鹿草
木夾纈屏風鳥毛石夾纈屏風山水夾纈屏風騰纈屏風とあり等の残缺
みやとおもも依をの十二扇仙女樹石屏風一是は名のあらはな今か
かく名づけを依なり載千世部一六扇の内子の鳥毛篆書鳥毛文書の二品
十二扇よりかへて三十葉は是より此寺真子千有餘年の書画なり其
式ともは左右の貼を下二寸許を長くして屈膝なく貼を副いて上下左
右の楹内の穿をうかち金銅を襯し紫草緋草或は夾纈騰纈等の絶を
貫けて接扇とせり貼もぬり又は木假班竹等或用の金銅黒木此釘
まき同種の浮縷釘字打きり然して窓縮の上下に錢形の木を貼たり
二は疊置むとす鳥毛の摩を換はれぬ用意あり又外記日記高
階通憲と仰はす納言入通信西也初高階経俊の猶子まると平家
物語に見ゆ

夾纈及騰纈書屏風 十二扇

在東大寺正倉院中

所行云こは前より依如く献物帳なる麟鹿草木夾纈屏風鳥毛石夾
纈屏風山水夾纈屏風騰纈屏風木の残缺なり此うち麟鹿屏風の
画の下に天平勝宝三年十月の文字横にまかこつて残れ依は初免
帛に記し銘あり梅子纈纈をゆもた此謂くり漆をことりよへ
はいと巧なり此騰纈は帛に白騰を蕩して其文様を書り新色
を加へて後より沸湯を沃けて騰を脱しまゝや或は白文にして騰を脱志
て後より新色せしめしゆるもありまき地一色あるは村濃おみて文
様白くさあからも新色を加へぬもみえたり是は着色をとも様わさ
きを知らせはひまも出まらるる頂日製し試をりは

樂府屏風

大鏡五卷云此關白の一とせの臨時客のあまり
ゑいて御座のおならりまを向へりてとれは

へ海子こそ高名のをの空依の如た。樂府の御屏風
からりとそをこるも被せれ

本朝畫史云師足以画鳴子時画樂府屏風

春村云師是といへ高名名の画師いふへ何の事ありと云はるる
弘高の誤なり塙忠室所藏大鏡古抄本まひらきとあり
りり征をへしといへり画工便覧に諸虫とて皇后宮大進を
る官名をいへりありて記しはをこの限りあり

画巧便覧云諸虫皇后宮大進仕一條院得画名

耕作圖屏風 二帖

倭錦云彈正忠廣周筆

花鳥屏風 二帖

同書云先久画之 土佐光信女
通攝千代

高野山圖

高野日記云大師此山の圖うおひと法性院の
坊にあひいひの繪所とりふともふましくみ延侍家
竹丸竹とみえ本ハ木とてえ鳥馬方とてふ文字それ
ものともいはずさうせぬいしものもあらず人坐
どのあり

本朝画史云空海有所書經卷字皆象百物形者

嘉勝寺觀自在王院壁扉繪

合妻鏡 文治五年
九月十七日 云嘉勝寺 未終切之以前基衡
入減仍秀衡造之 四壁並

三面扉彩画法華經廿八品大意云觀自在王

院基衡毒宗任建立也四壁畫洛陽灵地名所
次阿彌陀堂障子色紙形參議教長卿所添筆也
金山天王寺緣起 一卷

梵籙記元和六年十一月廿五日一條觀音緣起繪於智傳寺一

見外題金山天王寺緣繪後奈良院宸翰緣起筆

道達院仍覺繪筆者不知聖德太子十六歲ノ御

時山城国愛宕郡柙原ト云所ニ初テ木屋カケアリ是太

子ノ拙入ト申ハ此也其後一條院爲九通りニ本堂立

テ其後退轉シテ高倉院御宇再興アリ云々緣起一

見也少覺テ記之畢

貫雄云此緣起刑部大輔光信狩野法眼元信兩筆也
所行云山城国名勝志曰倉九通武者十路北謂之三糸殿町其南
有觀音堂所是在北野金山天王寺旧地也
ト云々也

鎌倉長谷寺緣 殘缺二卷

書畫筆者未詳 原三卷今下卷逸

卷尾云長谷寺本願僧海 押字

弘治三年正月吉日求之本願院内大夫

相陽鎌倉海先山慈照院長谷寺緣起戴軸之上

卷當時住持傳蓮社辨秋求之以當寺常住物寄

進之者也時近宝第四丙辰年霜月十八日辨秋

押字但中卷與書同之
貫雄云應永前後頃の書画子一ツ中岳の毛此有下卷ハ正供ニモ

樂音寺縁起 一卷

安藝田沼田庄李子羽郷内樂音寺縁起狩野安

信筆者不知 漢文也

餓鬼隻紙 一卷 殘缺

好古小録云画工姓名不傳

倭錦云刑部大輔光長筆

躬行云田中訥言所摸一卷
官庫にあり詞書を逸す

花鳥風月繪詞

名画拾彙云久我廣通公母室作画清婉画花鳥

風月繪詞一卷詞則通前卿筆也廣通公跋識書

画事實 此卷屋代輪池
所載

門部府生物語

注吉法眼具慶画詞筆者未詳 堀曰
所載

躬行云宇治拾遺物語に門生と云ふ名ありけはさう記を
好して射り賭りめされしとて相撲のはま下りまかす
ね鳥と云ふ処より海賊の船のよあまきりやを

賀陽良藤物語 一卷

書画筆者未詳

躬行云此物語を日本今昔物語集卷十六に良藤狐子魅されてまじく
の栄華はほむ秋家村倉君の大床の下に目こちあり一毛のうまきり
あり直時それの繪をくまへ
たかむのちへし

鏡わり物語 一卷

画刑部大輔光信詞筆者不知

古物語類字抄云骨董集云此画卷の時代のまひ

らりならされとも大う聖文安宝徳の頃のこれとお

まあり考あり詞長けきは毛らしの外百番松山鏡

の謡は此繪巻の詞書を似ま存処あり

兼康繪本 一巻

高山寺聖教目錄第一百一合義我湘元曉繪能惠

得業繪兼康繪本 在禪堂院

本朝画史云兼康未詳其姓氏明惠之時人而有

画圖之名見于梅尾書画之目錄

展開目錄 高山寺 云兼康繪本一巻在禪堂院

春村云兼康建永二年五月十四日、明月記の内舎人とて宗内とありて柳堂の障子十五間を名所屋を画し一事に建曆三年四月

廿六日法勝寺塔供養の繪師兼康行事賞の事又寛元元年十月十四日殿下屏風調進の事等あり但其後兼康朝臣

とて但馬守兼康ともありて右大将家の家司の由も見えたり尊泉合脈は西源氏右馬頭有長朝臣嫡男兼康長門但馬守

守右馬頭從四位上とあり人も明治十年四月躬行高山寺に至り此巻真跡をいふ奥に口口口年十月廿三日書寫畢実勝筆押白猫

子して画カ何り蓋十二周録群言前圖ありとソレ兼康繪本といふ其故をいへり

覺猷僧正繪本 一巻

卷尾云秘藏繪本也拾四枚也建五年五月日行

丸押

好古小録云禽獸草木ヲ寫ス戲ニ非ス

躬行云家隆卿嘉禎三年八十文薨を長隆に従侍從五位下越前守正
三位家信卿四男あり歌文抄子文永中の人とせり然らば時代い
さしこの後を産所なり
此繪躬行家花せり

閑院鷄繪

古今著聞集六云成光閑院乃障子子鷄を書たり
此繪を實の鷄にうつけ候とあり此成光は三井寺増
與義の弟子とあり傳りける

堅田間繪

倭錦云刑部大輔光信筆在予紫野大德寺中土
佐系圖云大德寺瑞峯院堅田間粉本一卷

貫雄云近年本寺を供して
世上子に元本あり

案山子妖物繪 一卷

倭錦云繪刑部大輔光茂詞飯尾常房

漢人狩獵圖

同書云采女正巨勢全岡筆 殘缺二葉
萩侯藏

漢軍率馬圖 一鋪

同書云小川僧正兼澄筆

画工便覽云兼澄横川長史号小川僧正父正二
位内大臣師家公常好畫佛像粗似全岡筆風

幾部

行幸繪

省間脚記

永享六年十月廿五日

云自内裏繪六卷被下

脚進行

幸賀茂祭檢非違使檢新寺繪也云

宮室圖

四卷

裏松入道周禪輯

全

二卷

同圖異本

松平定信入道
樂翁藏本

全

五卷

同着色圖

京極殿山石圖 一卷

画二姓名不傳每段有頭書及御厨子所預紀宗

恒貞書

元幹云洛東千菜寺藏有詞書卷教信之傳云豊大閣命服近諸士所令作云

北野社内陣衝立障子画 二坐

傳云巨勢弘高筆

裏書云光明院建武四年丁丑年二月廿五日八島

龜女修補之

倭錦云筆者未定

躬行云後醍醐天皇北丁丑は延元一年方クを當時カ所混淆の稜呼

弘高より非るべし但絹本也

吉士長丹像 二幀

近江国吳神社所傳画二姓名缺

躬行云袍色緑朱の二様あり赤は昇進の像方承へし冠を警華あり衣冠の古を考ふし但此社不載于神名或

吉備大臣繪 一卷

看聞御記 嘉吉元二 二十六 云抑若州松永庄八幡有繪之淨

喜申之間社家被仰テ借見今日至未四卷考火

々出見尊繪二卷吉備大臣繪一卷伴大納言繪

一卷全固筆云詞之端破損不見古弊繪也然而

殊勝也禁裡爲入見參召上

全入唐繪詞

二卷

好古小錄云画光長詞ト部兼好今下卷

画圖品類云忠憲曰此物語ソク古記ものナリ今昔物語の筆勢の如ク繪光長といハ傳ふ詞書此筆者雅經卿ニても所存ベシ

古倭錦云繪光長詞雅經卿

躬行按子光長は兼安頃の人兼好ハ觀應元年二月十五日六十八歳セリ圓大曆ニシテ後多事納百年ニ近カリ盈リれモ小錄の説時代不合といハシ雅經兼久三年三月十五日五十二歳セリ表セラレ依是も兼安光長ハ後きた依ハシ

全入唐圖

殘缺

好古小錄云殘缺画ニ姓不傳画法似新豊折臂

翁神采愛スヘシ古色掬スヘシ

義經記

或稱牛若物語

倭錦云東山義政公筆殘缺

全

同書云越前守光重筆

全

同書云住吉法眼如慶画之

全

画圖品目云海北友雪筆

全

小扇画

刑部大輔光信女千代筆

木曾物語 三卷

画図品目云画住吉廣通

倭錦云法眼如慶画

義湘元曉繪詞 一卷

展開目六 高山寺條云義相元曉繪

高山寺聖教目錄云第一百一合義相元曉繪云

卷尾云是は華嚴宗の祖師の繪有りきたあき所

子おきて御説すのらに狼藉の繪二入まおらゆへ

のらに繪廿一紙詞二紙

乙寺縁起 一卷或乙室寺縁起

名画拾彙云藤原伊久画於泉州堺浦乙室寺縁

起其卷末記云詞書正二位行推中納言兼春宮

大夫臣源朝臣于時貞和三年八月日繪所正五

位下加賀守藤原伊久書之 按卿補任貞和三年源氏為中納言者從二位通相卿正三位

宗明卿而並非正二位也亦此時藤原實卿為春宮大夫藤原冬通卿為推大夫源氏之人未嘗任大夫皆不合與補任猶俟後考

一本真書云天文九年庚子卯月廿二日書る乙亥八代任快教五十七文躬行案乙寺は越後国あり古今著聞集亦云云云云云此縁起

を関する係り高倉院安元二年丙申越後三城ノ太郎助長と云ふものあり其伯父は宮禪師といふ聖あり云々此乙寺松原のうぢみいゆり也

結いといふをもちて修練観行物とつむとありて越後国あり

事論ありを拾彙に和泉国堺浦とせしを成道ら失考あらむまた真書に加賀守伊久といふ所を飛澤守惟久といふ所あり伊久とてたうし知られぬ此巻水野士佐守所藏近時模勒して冊鶴

叢書中子或云此鏡屏書類從八百十
有越後國乙室寺緣起一卷

清水寺緣起 三卷

画刑部大輔光信詞書上卷近衛關白尚通公中
御門大納言宣胤卿中卷三條西内大臣實隆公
東山左大臣義政公下卷三條太政大臣實香公
甘露寺大納言元長卿

好古小錄云二卷画光信詞當時公卿集書

倭錦云繪光信詞四筆

宣胤卿記永正十四
五廿二云新丑相被來清水寺緣起繪

詞余清書事懇望同九
十七清水寺緣起繪詞余清書

三十三段内五段分遣耳垂相依彼卿傳達也繪

者土佐刑部大輔光信朝臣書之云

貫雄云此緣起三卷光信老後作也
新行云十錄之二卷之一倭錦云詞四筆と云依之の皆誤也此卷古筆
不傳所藏後在東條某藏
明治八年為官物被置博物館

全刊本 三本

未記云阪上末孫東山清水寺別當僧都覺源頼
數八十三誌之

追加奥書云建久元年三月十八日清水寺別當
僧正覺真記云

續追加奥書云寛文三癸
申仲春吉辰執筆武藤

西察

躬行按此刊本追加建久の年号あるは原本はことなきに依
存多し今永正の縁起は別本ありし但群書類從卷四百三十
大字強明衛朝巨清水寺縁起同卷第七百七十二亦有清水寺縁起
又漢文縁起一卷在干世上

行基菩薩縁起

一卷

倭錦云巨勢有家筆

狂僧雙紙

一卷或木氣達雙紙

好古小録云画刑部大輔光信

倭錦云氣達雙紙画兵部少輔入道

貫雄云狂僧双紙氣達草子と一物二名あり
画二光信と云ふは誤りなり

九相圖

一卷

尾張田智多郡内海宝樹院所藏傳云光信筆

元幹云長七寸許之ハ卷也原所模倭画歟
傳聞九相者東坡所製

躬行云九相は佛流方り相當所想法界次第一張想二懷想三血塗漫想
四臍爛想五青癡想六喉想七散想八骨想九燒想能轉心轉想故為想矣
また智度論摩訶止觀ハ子委譯あり
九相は東坡の所製子あり

合

一卷

画図品目云六波羅焰魔堂藏筆者不知

狐物語

一卷

類聚目錄云光信筆

倭錦云狐雙紙繪光信

貫雄云住吉家藏詞書筆者古筆なり伴爲
飛鳥井雅春卿檜山成法為耳露寺親長仁

狐繪

言繼卿記天文十一云内侍所罷向之狐の繪見度
由女房衆申候間二卷借り

久部

桓武天皇宸影

嵯峨天皇宸画延曆寺所傳後陽成帝勅封

熊野本宮神宝圖 一卷

同朝書目云熊野本宮神宝圖一卷

画圖品類云二卷

今新宮神宝圖 一卷

國朝書目云同新宮神宝圖 一卷

一本跋云右幸得拜見之便宜為後勘所錄如件
享保十九年十月日宇治田忠郷寛政元年閏六

月山城藤原以文

熊野錄起

画圖品類云豐後國農家藏

或云十卷

高島千春云熊野錄起松平能登守願所農家所藏其詳古方凡

熊野曼荼羅

一幀

展閱目錄

高山寺

明惠上人筆熊野曼荼羅

黃帝蝦蟇圖

一卷

寬政九年丹波元簡刻本跋云右黃帝蝦蟇經一卷和氣氏奕世所傳丙辰秋轉借自白川侍從鈔而得之按隨經藉志黃帝蝦蟇忌一卷正斯書也

千載遺編條叢幽光宜珍惜也

九曜秘曆

一卷

醍醐僧正成賢筆

白描高山寺

卷末云貞應三年孟夏頃以石山本書寫了本所持少異故書之東寺沙門成賢

鞍馬寺錄起

一幅

倭錦云土佐推守經隆筆

土佐系圖云經隆

從五位下中智大輔土佐推守

画鞍馬山錄起

至今在山

元幹云此錄起所貼紺紙短束以金泥識其由末文化中本山火災之時燒失了可惜哉

好古小録云鞍馬寺縁起三卷画狩野元信詞尊
應准后永正十年癸酉六月右京大夫源高国跋
之

橋窗自語云永正十年任尊天即闡新開画圖之
由奥書ニ見エタレトモサノニ採用ス、キ事
モエ工又一幅ノ古縁起ニハ比較ス、キモノ
ニ非ス

光明真言繪詞

三卷

画圖品目云画住吉豐後法橋詞指中納言為重

御隨筆同之

所行云為重御延文頃の人あり豊後法橋ハ履曆
詳なる中倭錦子麻安の人多し是よりハ
時代ハあへり
睿山願藏也

光明寺開山繪傳

名画拾彙云光興相傳土佐家祖然画系不載無
知其詳録倉光明寺開山繪傳其所筆云

光明寺縁起 一卷

倭錦云光明寺縁起法眼如慶筆

光明寺在山城国淨土宗鎮西
四本寺之一也俗稱黒谷

黒谷縁起

画書者未詳

遠碧軒記云秋田屋庄吉ニアリ見事成モノ也

春村云此錄起在里谷上人傳世上九卷傳と云ふものよして淨家
此撰成爲し指遺古徳傳此一本に里谷傳と云ふ所

空海記 殘闕

倭錦云刑部大輔吉光筆

類聚目六云空海雙紙繪 不注
画工

廣隆寺錄記

展閱目錄 廣隆寺
條 云寺傳謂繪法眼具慶詞醍醐

聖雲僧心

住吉廣行云具慶の筆ニあらん

求聞持像 一幀

倭錦云南都克尊画 有名印

元三大師像 三幀

本朝画史云覺起号河闍黎公所謂横川谷元三

大師像河闍黎公所筆也甚有靈驗或云彌卿公

者覺起也別師慈惠

倭錦云山門覺起所画三幅号活脚影 在齋山横川影
堂又云栗田口

法眼隆光撰三幀其一在東齋

画工便覽云河闍黎公不知其名智證弟子善書

画最精仙像有器趣

躬行云元亨新書卷四云叙超姓巨勢氏泉州大島郡人幼上禿山有奇
相出古過鼻慈惠見之大驚云聰明之相必為國宝納而為士是云一皇后
有產難勅超持念云徒步入宮產誕即平常大悅加僧都超不受速
出宮官司遂脊後詔牒自是有僧都之名云云又扶桑隱逸傳云
此僧を載たれと新書の文を約畧し稱率兜僧都とありて俱に画事
をなせし事云々凡銘本真年云云説子元三大師像筆者阿闍黎公者謂
慈惠大師之弟子九條右近相師補公男尋禪僧正也画中有持者名山
雅聖救真蹟三蹟今在山門東台及坂本末迎寺山門所傳如此然画家
以之見超為阿闍黎公者甚誤矣といへり仍く尊身を麻を撥る師
輔公亦十三男尋禪天台座主権僧正号飯室和尚妙香院慈惠僧正之
弟子正曆元年二月十七日入滅云三十八諡慈惠忍とのに是も其事ハ
記されし猶後考但真年侍者置賀を仙雅とせし誤なりけり
元三大師と云慈惠僧正をいふと云
躬行再い真年説を按て於抄諸寺部に飯室中納言義懷龍居
尋禪僧正と記あり義懷中納言九條相国師補公の孫なりて伊
乎公の五男なり花山帝に隨して入道名字寂真と改之飯室安樂
寺に隱る尋禪僧正は師補公十三男なりて入道と牧姓の親なり
は又安樂寺に住まひありて内く義懷入道の六男天王寺別當延
円画を能くせし繪阿闍黎と稱し榮花物語鳥ノ舞子飯室阿闍黎と
稱せし七此人なり尋禪僧正を飯室和尚と稱せしからし波也

今縁起 五卷

倭錦云画法眼貝慶詞胤海僧正
勸修寺縁起

画刑部大輔光信

元長卿記 永正四年 閏四月四日 云 勸修寺縁起之繪出來光

信持来祝着

躬行云子并露寺元長卿記かく識されし此御の
筆を依りて思ふに并露寺に勸修寺家此分あり但群書類從
卷四百三十勸修寺縁起に
納む

混して真年遂に此説ありしやとおもふ所なり元三大師
像尋禪僧正の筆と云ふは七信のまじく阿闍黎公は延円といふら
む然しはいふた
其信の誤り

過去現在因果經

真書云建長六年甲寅二月廿七日執筆不快画

師住吉住人々法橋慶恩并子息聖衆九

躬行云岡田爲茶曾て一葉を損刺せり卷子を平分して上は經の序文を託し下は其意をたよりり予いふた其全卷を夏に故臣田爲茶以真書を以て住吉慶恩に慶恩の謀とせり

釘拔念佛縁起

一卷

画圖品目云繪狩野洞雲探雪常信

真書云文明十三年辛丑六月弟子沙門某謹識

右寂光寺釘拔念佛縁起旧本書画不好今改製

不寄附焉元録五年壬申四月常山座主為五十

六世二品親王

斯行按之日先山志の詞を公辨親王即涼筆圖画は狩野常信筆と之伊には文明年間的事跡ありと縁起の元録の製表あり

月令御屏風

江家次第四方持云鳴鷄掃部寮奉仕御装束於清

涼殿東庭云立御屏風八帖太宗或四帖云不可然往年月令御屏風也近代無之

九條殿寢殿圖 一卷

大永甲申歲所圖也真書云比一卷藤本林相官之

所持也亦有子細今書寫不以此兩槐門圖有異本坊

城前大納言所持也進可寫件坊城本は花山院家所傳本之寫也此本元桃化坊御

傳來之寫之由御傳來之本重可申請也頼二住藤原御

車圖 二卷

國朝書目云車圖二卷同一卷同一卷

畫圖品類云車圖三卷

九條殿車圖一卷真書云元久三年四月賜御本

寫之繪師定順外記大夫三善信成注進之

唐車真書云八乘元三年十一月即春日詣之時注

之

其次云此車繪搦等自九條前關白經教被借送

仍寫留之彼家計俸款至德二年十一月三日

右九條西園寺西車圖近時模勒在丹鶴禁書中

孔雀琵琶

樓面画孔雀槽未詳伏見宮器

君臺觀并御饒記 右一卷

君臺觀未記云文明八年三月十二日能阿彌在判

大内左京大夫殿

御饒記跋云大略存知分慎注申候即不審之事

候者尋可兼候就口傳可申候不可有外見者也

大永三年十二月吉日松雪齋鑑岳真相 在判

躬行云是日東山殿藏書画及茶器又殿中床莊市之圖託有可
但群書類從分三百六十一收之共三一卷とセリ

灌頂卷 一卷式小紫摘草紙

画図品目云灌頂卷画住吉法眼慶恩詞後白川
法皇宸翰

願表目錄云繪住吉法眼筆

跋記云灌頂卷一軸後白川法皇御宸筆無疑也
也希代之重宝雲上珍也并圖繪者住吉法眼被
画波是可秘

貫雄云此卷九條殿御藏也但此圖詳畧の二本有り詳本を灌頂卷
とし畧本をかし景恒とし云
躬行云住吉慶恩は倭錦子中務少輔隆親男光長の御建仁中の人と
せり光長素より隆親の男は非を認めあらず安説なり土佐系圖子ハ
高階隆義の子とせし隆義ハ厄慶中の人なり其子ハ建武已後あり
應仁時代いよく合難し又過去現在因果経跋文に建長六年甲寅二
月廿七日画師住吉住人法橋慶恩并子息聖衆九と有り故岡田為
基は此記文よりて慶恩ハ慶恩の誤とせし後白川法皇ハ建久三

年崩し絵入り猶考ふ所し但詞書ハリリとしたりりしと野宮の
い多事ハ兼々を後白川法皇宸翰とせしは別ニ顯正ありしとらん推
案ハ過さぬハしかる不經の語とせりて至尊の宸翰とせし事
襲楨魚禮カ一テそむゆ

菅家紅梅教指圖 一鋪

摸本記云心蓮院所藏原圖三分之二也 柏本改
規模

元興寺別院極樂坊縁起 二卷

画西岸寺古碁詞僧正道恕 寺在南都今
称極樂院

奥書云古雅有旧来之縁起因古壺損今應尊覺
律師需重令添毫畢元禄十四年辛巳年仲夏
且東大寺華嚴長史二堂別當安井門主前大僧
正道恕

計部

玄上御琵琶

撥面画打毬者一人

建曆御記云累代室物也置中殿御厨子恨元樣人不知之掃部頭貞敏渡唐之時所渡琵琶二面其一故紫檀直甲也此琵琶灵驗内裏燒亡之時飛出撥面文消所々有赤色不知其繪代々有沙汰未决俊房云良道琵琶把移玄上彼撥面文不可違彼唐人打球形也

古事記云玄上撥面繪事師時卿記云打毬之唐

人、騎欲是左府仰也云

古今著聞集 卷十云玄象撥面此繪を消く久く本

子けれども志ま家人有二條殿教通仰られは家は玄上此

まち面の繪やくは馬上よく打毬のまの腰子杖を倚て舞

事家姿あり良道に撥め八件の繪を摸してかれきり此

此事師時卿記にお交侍り

躬行云此御琵琶の名建曆御記に玄上宰相献延喜帝仍号玄上と記
しりへ家を本説ともへし柳此撥面の繪様をろく此樂書何くまれ
書亦且上件此御記の一説も其象飲者録水故号其玄象とありは
其画消失てのち玄上の玄象と誤りし文字よりして強ち構へ出
出るは空説にてまふとを俊房公乃説のことく唐人打毬圖を以て
正しりけは今の現る傳もれば嚴島神社此神宝谷川の比は弘
長中子横せはよし作者唯念々記文ありそをも欄干れを子
球杖をまたはまのひよりを画けり時代を少し後見せれとこれに
とを画するや此御琵琶の内はうりの宝物ありしを今ありと七代元
徳世の末こそありまれば因云体源抄に此琵琶撥面は必りら繪を
うく天地人と書へし天子は月霞鳥へは胡人地ま石水草木とし
ら中古き撥面の繪あるらんかくのこはあらねと画く人い
やるおきて
あらまや

賢聖御障子

建曆御記云南殿北障子号賢聖障子賢聖画之上色

紙形近代不書本文彼等藝能也注云按寛平四年九

月十五日令画本朝鴿儒之像於御殿南庇東西

障子延喜六年六月令小野道風書中殿南庇粉

壁於漢書以未賢君名臣德行同七年令同人改

書南殿障子賢臣像見編年記大後二條院寛

治七年正月十三日西殿御障子賢聖圖目錄卅

二人

古今著聞集 卷十 云南殿の賢聖障子の寛平の御時とし

めて書きけけりや其名臣といふを馬周房玄齡杜如晦魏

徵自東諸葛亮遂伯玉張良第五倫全管仲鄧禹子產甫何

全伊尹傳說太公望仲山甫全李勣虞世南杜預張華自西

羊祐楊雄陳寔班固全桓榮鄭玄韓武倪寬全董仲舒文公羽

賈誼叔孫通全等也已上卅人此人この形をかまけけり此麒麟閣に

切巨を圖せられ坐臥跡をおもれけけりや初は色紙形に銘を

うしれきりりされむ道風朝臣のまじり文も七也とい

けりるるり一載生り其銘いはこあらりかきす有き名也當時

ハみえん色紙形もうりて作りぬ兼元の開院の皇后也け即

造内裡ありけりまもとを尋常の式の屋に松殿作りを繪生

りけり此生い改めて大内擬して紫宸清凉宣陽校書殿

弓場陣座有と要頂の所多く添らまける土御門の内裏にけ

りけりとを聞え一地形せもくて紫宸の間敷を去らへられり

時賢臣の影もちいさくちのらもてちり建長造内裏に

とふ少しま生用捨せられり細く尋ねて注をへし大

内にてを此障子をもち置きて此事に時むりりを立られ

けり御秘蔵の儀にて作りたりや建暦の開院よりみられて

後之其人... 有

本朝画史韋同云皇居南庇東西障子作歷代鴻

儒像所謂紫宸殿賢聖像是也躬行云鴻儒像者寬
手四年始所画賢聖像者

延喜七年所改造固不同以儒像相
混於賢聖像者非也金岡始画之小野道風書其

贊詞其後數百年來當時繪所預画之或一時有

名画史應詔者至今不絕當其撰者為画家之榮

焉贊詞又如足雖然贊詞不傳金岡所画古像之粉本十
二人者余家世所藏也最

有銘存于今惜哉
此外之像不相傳只使當時能書楷紳書名於其上多

世尊寺家書之近世持明院家獨掌此事躬行云贊
詞全存于今

同書云有房姓氏未詳為繪所預加賀權守建長

造内裡時應詔欲画之然無舊本自鴨屋殿御倉

出金岡繪本傳有房

好古小錄云賢聖障子粉本画者名姓不傳但
正和前粉本也繪所預家

傳馬房
魏杜四人粉本也按土佐家傳刑部大輔吉光

正和中西殿障子画賢聖十坊等粉本今不傳可

惜

名画拾彙云經隆建長中画南殿障子

土佐系圖云經隆從五位下中務
大輔亮守初名有房建長中南

殿障子画賢聖其因傳寫在家

倭錦云經隆賢聖像殘闕又云賢聖障子寬平中

金岡草創色紙形道風朝臣建長中經隆正和中
吉光寛文中守信延宝中安信宝永中帝信寛政
中廣行安政中弘貫修補

躬行云土佐推守經隆中務少輔隆親の男よき建長中此人あらむ
且右房とい別人を依りてと也荒海即障子の処より土佐系岡
己下附會此説有故事論有まは此頃相即障子は延喜七年
に改め画け依処にて寛平鶴儒像に同じり画史等も誤おほし
此と有難し岡云金岡八巨勢系岡は後五位下赤女正元集人正と云
てさら異論有すを本朝画史中納言巨勢野足ノ子仕清紀
陽成光孝字多醍醐九朝官至大納言と記せ依は何事をも公卿補任
を檢る依は金岡を不載野足卿八五中辨苗麻呂朝臣子弘仁七年十
二月十四日六十八才薨と云き醍醐の御代と盛有りし金岡ハい
く時代後きて相おとし大納言ありは証と補任系譜より云ぬ
ろへは相寛を従六位下讚岐少将と大間成文柳花鳥條清壽子のせ
て既に画史にも引出さる選隆令三位蔭嫡子従六位上庶子従六位
下とあり大納言は相寛正三位なり又三位より其子従六位下を
事あらんや抑此大納言の事ハ画巧便覧其名録近世此傳錦

も載て世人のまじり事なきハ殊さらし識一れくや然り谷川
士清紀訓環子巨勢金岡八大納言あり仁明帝の時の人清涼殿に
繪をか記せり紀金岡は朝日阿闍梨と稱し彩画の妙手後宇多
帝の時乃人將野岡ハ公像此妙手後冷泉帝此時此人此之まきを安し
と記し事依しつてをこなる金岡大納言あらぬ正八巴よいは川中殿
に及り紀一事ものこは近南殿の誤あらへく且宇多醍醐の御
代を經一人よて仁明朝の人ならぬ朝日阿闍梨内深ハ寛印供奉の
二男ありて後一條帝の寛仁頃の人なるハ後宇多此御代は稍二
百十年のむらあり將野岡ハ金岡の轉訛より素より其人あり
しハあらぬをまさやうし時代をけへは推考した依を何やし子
障ありしれは依を名画拾彙子画巧便覧よりして將野岡其子永
意といふをけへ加へ載たるは是もまた誤述ともおほハぬ失錯
あり

全裏繪

建曆御記云此障子裏方画唐華即帳間戸画獅
子拍犬障子上画負書之龜本文心障子戸三也

慎聖御屏風

江談抄載之

元文大嘗會御調度圖 三卷

住吉家粉本云大嘗會悠紀主基御節會下繪上
下元文三戊午年九月二日御用奉住吉内記廣
守

全鮮味圖 一卷

御厨子所預紀宗直朝臣所造也

悠紀方雉 舟紅梅造技 鷄 舟萩造技 主基方鴨 舟楓造技 籠物 舟栗附造技

檢非違使并檢新繪

着聞御記 永亨十六年十月廿五日 云自内裡繪六卷被下云檢非

違使檢新繪也

玄宗皇帝繪 六卷 一名安祿山合戰繪 又長恨歌繪

玉海 治承三年九月四日 云臨晚持自内預賜玄宗皇帝繪六

卷當令一見也六且返上玄宗皇帝繪 使治部大輔季信

同書 建久二年十月五日 云柳長恨哥繪相具有一紙之反古

披見之處通憲法師自筆也文章可褒美義理悉

顯感歎之餘寫留之其狀云唐玄宗皇帝者近世

之賢主也而慎其始棄其終雖有泰山之封禪不

免蜀都之蒙塵今引教家之唐書唐曆唐記揚妣

内外傳勤其行事彰於画國伏望後代聖帝明王
披此圖慎政教之得失又有厭離穢土之志必見
此繪富貴不常榮樂如夢以之可知故以此圖永
施入宝蓮華院了于時平治元年十一月十五日
彌陀利生之日也師彌押此國為悟君心豫察信
頼之乱所画彰也當時之規模後代之美談者也
未代之才子誰比信西哉可褒可感而已

花鳥餘情一卷云長恨哥の繪は亭子院の御時かせぬ
りいえ侍と其繪とて未のよき傳もたぬ事七侍ら
凡然依を通憲法師信法名西唐書唐曆揚此外傳ありし書

をむむへてあきららしく繪をか記しを今の世子長恨
哥の画は申はへ依是は平治の乱に阿依へきつをわ
しく後白川院の御心を此にまをりたぬに思ひくたて
侍候とそあれとく安祿山やうあ依信頼がゆふまいたぬ
まくをうりぬふも也其繪ハ平治元年十一月十五日宝
蓮華院に施入しもへ依とて信西一紙をかきそへてたを

たるより舊記に載るなり

貫雄云此繪不傳于後世法眼如慶此故事を扇面に画くもの
弱冠光陣と名の依頃の作とて世に上見申
大日本史列傳藤原通憲文章博士実兼子也長門守高階経敏子養
之歴事鳥羽崇徳近衛三朝叙正五位下云天養元年遂任少納言無何
薙髮更名円空
又改信西

玄宗花軍繪 一卷

清原雪信女画之

賢聖瓢繪

法隆寺所傳七種宝物之一瓢上有孔子榮啓期四皓鬼谷

子蘇紫張儀像各書石

柙庵隨筆云孔像の著れもの是は過生依る

道の幸法隆寺云賢聖瓢瓢初いん笑のひさことり

現存詩歌屏風繪

名画拾彙伊信朝臣傳云現存詩歌屏風跋曰此詩哥

者建治二年春閏三月關東相州時宗所被結構

云屏風詩哥圖作者伊信入道詩者藤中納言資

宣撰之哥者右大辨入道真觀撰之也以當世能

書令書色紙形單

躬行云藤伊信入道者為繼江之子信實朝臣之孫真觀者光俊之弟名也

源氏物語繪 十卷

古今著聞集卷十云天福元年のも依此頃院藻壁門院

の方をわらふて繪盡しれ貝霞ありけり云先女院此御方

負すおゆひて源氏繪十卷たし筆原料紙を書く也此

志記し子詞りきり能書の聞えあ家人いむり神書家

かられ韓櫃子ちん入らきなり少依

明月記 貞永二年三月廿日 云来撰出物語月次不入源氏

并狭衣之源氏當時中宮被新圖

本朝画史云藻壁門院 增子道長公女後堀川帝后 性好画圖

曾画源氏物語故事

全 二卷

伊豫守隆成画之

地卜傳土佐季國等日越前守光顯亦或云觀應中の人

全 三卷

倭錦云王殿頭隆能筆詞世尊寺伊房卿 十卷

躬行云伊房卿指中納言正二位永長元年九月十九日薨六十七歳之世尊寺系諸子伊隆能は嘉永頃の人なりハ時世相ふるハ但早

藏やとり木東屋一巻柏木横留一巻尾州家藏夕而粉正由一卷躬行藏

全 一卷

同書云越前守光正筆 密画也

全 色紙殘闕

同書云若紫卷圖刑部大輔光長画

貫雄云原屏風子画く処々今色紙と有て分敷あり

全 大色紙

同書云飛彈守光秀画 白猫 袖筆

全 色紙大小数品

同書云刑部大輔光信刑部大輔光茂左近監将

光无法眼如慶同貝慶画

全

画巧便覽云光信之女嫁法眼元信善画尺紙上
繪源語之内須磨花宴華散里之圖頗學夫之華
風唯要美麗細密無活動草木最秀圖

本朝画史云婦人土佐氏光茂之女而狩野元信
妻也善倭画每為源氏物語古実儼有父家風至
其草花水石則効元信

躬行云光信之女千代法眼元信子嫁也光茂亦
其兄有画史云子日器也

全

五十四帖 釋錢

倭錦云刑部大輔光信所画外筵 後拍原院宸

翰物語當公卿合作

全

同扇面

同書云扇面五拾四景源右衛門尉光則筆

裡面
捺印

全

同書云光久女画之

全

屏風

土佐系圖云光正 吉光二男号土佐
從五位下越前守 八曲屏風二

二帖源繪

粉本一卷元未
十一月展玩

全

三枚折

倭錦云藤裏葉卷圖屏風大藏少輔行秀筆

全

同書云刑部大輔光信依東山殿命画源氏圖屏

風七帖

全

車争圖

土佐系圖云光茂

左近將監從四位下

葵卷圖六曲屏風二帖

其一帖光茂画之

全

簾木卷圖

刑部大輔

西物誌木枯女

圖屏風二帖

全

土佐系圖云光元

左近將監從五位下永祿十二年正月十三日戰死

源氏繪五尺六

曲屏風二帖

全

左近將監光起筆

源氏供養繪詞 一卷

書画笔者未詳

躬行按子とは安居院聖覺法印源氏供養繪詞文記に繪を加へた依
るのよていと古うらみみゆ此夕胡月抄また屏書類從弟三百十三
のきり猶古物類字抄に
はまひらなり

源三位頼政卿像 一幀

右京大夫隆信朝臣筆

絹本高尾神護院藏

源平合戰屏風 二帖

笈埃隨筆云誓願寺藏源平合戰屏風凱歌屏風

と号但不錄画工

展開目錄誓願寺云右京進光信筆八嶋屏風一

隻

元亨合戰繪詞 二卷

書画筆者未詳山城国三置山福壽院藏

華嚴緣起 六卷

類聚目錄云鳥羽僧正筆梅尾高山寺藏

展開目六高山寺云土佐光信筆華嚴緣起六軸

光信よりは時代古くみ遊最能也

道化幸同云華嚴緣起六幅筆者未定

日記記事六月廿二日梅尾室物虫松條云土佐家所画華嚴大師緣

起云

躬行云此卷本寺に華嚴宗祖師繪傳と稱、画信實、朝臣詞明惠上人仁和寺准后法尊光明峰寺開白道家公とあり

華嚴釋迦像 一幀

展開目錄云宅間法眼筆高山寺藏

解脫明惠緣起 一卷

名画拾彙云有家画解脫明惠緣起一卷詞書冷

泉為相卿筆好古十錄同之

倭錦云越前守長章筆

躬行云中納言爲相の嘉曆三年七月十七日鎌倉に遷りて有家の顯文抄に明月記よりて建曆中の人と云ふ所は百年の餘りて古本にあり倭錦は巨勢光唐男元亨中の人とせりさらは爲相卿の時世古へりといふは長章の同書に越前守長隆の男と云れ

教信寺縁起

画巧便覧云藤光定官大納言不知何許人善画國筆力佳作和州教信寺縁起筆與官名名画拾彙云藤原光定善画繪康平中画和州教信寺縁起時爲大納言見其奥書按公卿補任康平之時無光定者嘉平年間有光定任参議豈其人耶

人耶

顯文抄に云嘉平といふは年号ありけり嘉元の誤なりといへり又云光定は参議定藤卿男参議經三位治卿嘉元三年七月三日薨三十二とあり

玄奘三藏像 一幀

倭錦云小川僧正兼澄筆

競馬圖 残欠

同書云右近将監隆兼筆 絹本一書松浦丸衛門尉藏

全

好古小録云粉本残欠画工姓名不傳画圖品目云競馬圖十二枚画者不傳

元腋圖 一卷

畫工未詳

見聞諸家紋帳 一冊

奧書云足利將軍時代於干評定所改之悉次第
不同書顯干以

依々木本奧書云天文八年卯月十九日依々木

秀勝 神

但羣書類從中四百廿四
諸家紋帳一冊

古部

後白川帝宸畫御容 一幀

名畫拾彙云嘗聞後白河帝宸筆御影今在山

城白河寺 倭錦

全 一幀

画匠未詳高尾神護寺藏

全 一幀

筆者不傳洛東知恩院藏

全 法皇御幸圖

類聚目錄載之

後鳥羽帝宸筆聖容

一幀

本朝画史云 後鳥羽院多能而画亦工如今賀茂神主松下家所藏尊像所謂自画自賛也賛即製二首而已蓋松下之先祖氏名以子為神主故遺以尊容及宸翰

今帝白猫宸相

一幀

同書云兼久記載平相州義時奉遷先帝於隱岐帝于時使信實寫真以贈大皇太后御母七條院種子今在
于水無瀨御影堂每月廿二日緡紳緇素相會詠和歌于今無斷絶

高野日記云信實朝臣也御影をかくまひて七

條院へまわらせられし云々これに御影堂をたてり

れ

萬宝全書云後鳥羽帝御幸の行在まきおありか

隱岐くま遷行幸れ真圖又須徳院中殿御會圖こ

く信実也是を寫しし蓋遷幸圖は今水無瀨

の御影堂に傳り中殿御會圖或も九條家ありとや

今帝朝覲行幸圖

吾妻鏡寛喜四年正月四日云後鳥羽院朝覲行幸繪自京都

被進之將軍家今日有御覽陰陽權助晴賢朝臣

依仰讀彼詞云：

仁帝御幸圖 三卷

古今著聞集 卷十 云後鳥羽院御幸供奉人乞誠

二えらまのひて御あらまゝに此定に御幸あらまゝとて

信實朝臣に仰られて三卷の画に可なりまゝに八條

左大臣光朝峯寺との左右大臣にて供奉し給へりて

左大臣重宝を侍りし今は脩明門院にまゝに家とや此

御幸をあらまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

本朝画史云後鳥羽院欲有御幸時先使信實画

其行程甚新奇

後宇多法皇宸容 一幀

画二未詳嵯峨大覺寺藏

後醍醐帝御真 一幀

画匠不傳宿老之公卿侍座 失其名或云尹大納言師賢に 紫野

大徳寺藏

仁 一幀

画二未詳京師廬山寺什

仁 一幀

筆者未詳紀伊国根来寺藏

後光嚴帝宸影 一幀

画之不傳山城国宝鏡寺什

後土御門帝宸画御容 一頓

般舟三昧院記云伏見般舟三昧院を後土御門

御草創あり云々御齡四十八此年富鏡子向ま來り

して御手代うら龍顔を模寫せらるる画所預光信子御ら

きて尊形をうけり云々御製此倭哥一篇を題せられ此院

子孫に傳へし

後陽成帝宸容 一頓

画之不傳京都廬山寺藏

御襖行幸繪 七卷

後深心院近衛道親白記 永和元年十一月云御襖行幸繪七卷今

日申出見之是蓮華王院宝藏御繪也當被預申

御室去頃被召寄

昆明池御障子并裏繪

古今著聞集 卷十云まろ清涼殿の弘廂に此の障

子を立て昆明池を圖せらるる其裏に野をうやめた

くは小屋敷あり又近衛司に鷹はうひをなをうやり

是を難勢とせん候き野にありき時少將のころと

波少將とよむ大井川にゆりては季經の少將に

事よやればおれつへを出くさる世よりしけ候と

此一處之也

躬行云昆明池禁叔御抄楷抄云昆明池勅撰和哥名所龜山院御撰昆明池障子一方有唐人釣漢之姿一方有手長豆長次女史記封禪書千字文古注云長安城西有昆明池漢武時南夷有昆明國地方三百里居水中能水戰武帝常伐之不得乃設計長安城二十里穿一坡四方四十里池水滿造船於其上教水戰遂破波國為昆明國另其池曰昆明池

春村云雜藝は今様掉歌田哥の類也後白川帝雜執集ありしと今は世に傳えられたる寂蓮法師の真跡を片葉を存し西京雜記武帝作昆明池欲代昆吾夷教習水戰因而於上游戲養魚曾給諸陵廟祭祀餘存長安市賣之池周迴四十里又云昆明池刻玉石為魚每雷雨曾常鳴吼鬚尾皆動漢世祭之以祈雨

馬形御障子

中右記天永三年十月十九日云可渡御新造大炊殿也御裝束事云見廻所之處朝干釣壺布障子皆由馬

形里亭多相具打毬也仍俄宜具打毬之由下知繪師信貞則画圖了令立替

建曆御記云清涼殿布障子如渡殿魚土居近代引馬繪也是僻事也宗忠記打毬騎馬唐人之由也

禁腋秘抄云才十ナケシ二間アリ布シキ也内衝立障子アリ馬カキタリ南ノ貴子ニ馬形ノ障子ニ朝餉ノ向ニハ馬形ノ障子ヲ夕衝立障子ニ非ス木ヲ立テハサニ立タリ

小松園障子

古今著聞集卷六云小野宮のおと衝立障子ニ松を

うぶ人として常則をのりたる他行しきりたるは
とて公望を勉て書せらきり後子常則をのりて
とあられりれかいら毛筆子似きり他所難きとて
常則にて申け。常則をば大上手公望をば小上手とて
世子を稱しけはとち也

本朝画史云巨勢公望世其家小野宮大臣造屏
風使公望画小松

躬行云小野宮實頼公天祿元年五月十八日七十二歳薨公望天曆頃
の人飛鳥部常則左衛門少志河海抄見也

坤元録御屏風

枕邊紙云ちむけんろく此御屏風をとおくくかぬ

由依名あき

古今著聞集卷十云能通繪師良親子屏風二百帖に繪
也書とすりり其中坤元ろく此屏風をば良親相傳
の本もてちん書侍りり大女御まなり強いつり時二條
とのまよぬらあさせくり色紙うきは四條大納言を
うりるりまた考成をして模模すれりり一本は一の
人此御相傳乃るのり

春村云坤元録一名括地志現在書目日本紀畧天曆三十二廿九倭名抄卷十
枕草紙春曉抄江談抄卷四長秋記大治五五廿五朗詠集私注等子
倭名抄考證云現在書目云坤元録百卷不著撰名氏按玉海載中興
書目坤元録十卷恭撰即括地志也其書殘缺則知坤元録即括地志新
唐書括地志百五十卷又席略五卷親王恭余蕭德言顧胤將西卿謝偃
蘇最撰今魚傳本といへり又按皇朝類苑卷四十三大江定基入道

寂照の語を載ぐ云本國有國史秘府略日本紀文館詞林混元錄ホノ書
と抄混元錄と坤元錄なりむを此方の書と一まは誤也
世書目子右百卷新唐書子八百五十卷中真書目及宋志并藝文志
は十卷と何依是非をいひ

躬行云文館詞林又國典子あらは唐許敬家撰とと千卷今僅
子十餘卷を皇朝に存あり

躬行云能通朝臣は尊卑分脈子山井三位藤永頼御男從四位上左兵衛佐と
こ元良親顯文抄子小右記を引て左兵衛志繪師治安頃とあり四條
大納言公任は治安四年十二月十日致化長久元年正月十六日
薨せり

御即位圖 一卷

住吉法眼如慶筆 當世の御式也

小朝拜圖

住吉法眼具慶画之

五條八幡詣圖

画圖品目云公方家五條八幡詣繪

類聚目錄云麻苾院殿五條八幡參詣圖

孔子像 一幀

倭錦云豊前守邦隆筆讀世尊寺家一葉院
宮藏

躬行云孔子をいりへは久慈とらひと今を有へて漢音子此
に稱ふきハ俗にあらひて此子載せぬ内て孔像子衣冕大司冠八座
連竹右といふのありは是をいひし
像子の尋ねて記をへし

後三年合戦繪詞 三卷

原本未記云上卷詞仲直朝臣中卷詞左少将保
脩下卷詞從三位行尹卿画工飛彈守惟久

同跋云右後三年軍記書画三卷者播磨宰相輝
改

卿 北方源善字子東照神君
御女号良正院

之所持而波家奕世之珍

藏也玄孫右衛門督吉明朝臣恐其久而敗壞也
今茲元祿十四年辛巳冬十月就京師而修補焉
有故許供天覽聖感不勘定可謂希世之勝宝修
補切成請千余畝錄其事以遺後裔余不得辭遂
書以贈之元祿十四年辛巳冬十月下旬特進藤
基時識

好古小錄云画飛彈守惟久詞上卷土御門殿寄
人仲直中卷持明院中將保脩下卷世尊寺三位
行尹卿原本序散逸傳寫本序云貞和三年法印
權大僧都玄惠序画力精好事可徵

画岡品類云三卷画飛彈守惟久此卷物四卷有
を第一卷よりおて三卷をわたりとぞ又引橋富自語云後
三年の繪巻物序文ト云モノ尊田親王、筆摸ヲ見タリ
其文、奥ニ貞和三年法印權大僧都玄惠一谷、衆人中ニ
應ノ大綱ノ中序ヲ記シ云ニカリトアリ東見記云後三年
源義家、事繪草子ナリ相平相摸守殿ニアリ
耳敏川云後三年画巻物を飛彈守惟久の筆にて
記は僧玄惠の作手蹟は尊田親王の御筆也といを代
々北條家子傳へり神君御時姫君北條氏直へ嫁し孫

い後御離縁にて帰らぬ時此繪巻をのを推し歸
り終ら其後池田家へ松平周嫁ゆ其時生その画の巻を
携へ終ら此御家にてまをる宝物として傳られし
い此頃より詞書りおて繪の此家傳りし
を近知らる售むといふもの出来たり其事池田家
へ聞えけきとめられし水府大夫中山
備前やうてあられしなりてあうかむれし子直大楠
子ま子れありり詞書ハ中山後子あり

倭錦云画惟久書序文尊円親王詞行尹卿

躬行按子持明院保脩朝臣を尊身分麻子權中納言保右男中納言保
藤孫從四位下左中將能書人早世哉之仲直朝臣ハ同書ハ後醍醐院

上北面對馬守源仲朝男上北面細工所別當文殿寄人從四位上彈正
大弼とこえて從二位行尹卿ハ世尊寺系譜子宮内卿男修理大
夫行房弟貞和六年正月十四日薨る青蓮院尊円親王ハ伏見帝
初六皇子延文元年九月之寂去獨清水法印玄惠ハ觀應元年三月化す小
録ハ中将保脩朝臣を中將とし後醍醐帝文殿寄人仲直朝臣を土御
門院の文殿寄人とす又倭錦子行尹卿の一筆とせし各誤あり
亦游清々耳敏川ハ此詞書中山家子有と記しハいりちな計聞あらむ
今もいりハれあり具ハさり再按ハ詞書ハ其玄惠の作書手ハ
尊円親王とありおを八は序文の誤ならむ此序文今を供して
有ハ本文内ハ初關ハ武衛を國司進歸すれりなりと記して陸奥
國より勢をふはひて出羽へこえて家衛ととま来てりやう云
出きありありととを四巻ありとハ説ハ只管ハ辨ハさく
そおハ中内にて明治九年其真跡をみゆる元録修補のまるとこえて
裝潢ハふはひたきと美を盡ハを然ゆる繪様もこえわぬまて紙
あらひ着色いさく剥落して所ハ杜まの墨内へまろちり詞
書の墨をらも薄く成りまきは當時俗工の午子かりぬゆる志依
元録の修繕ならはりハはと
くやしくくちちかしくおゆる依

書記

兼安四年三月十七日

云拾遺未臨為見申繪所招引也

件繪義家朝臣為陸奧守之時與波國人武衡家

衡等合戰繪也件事雖有傳言委不記又不盡靜

賢法印先年奉院宣始令画進彼法印借出御倉

送之為清徒然歎

吉田大納言經房氏部卿正二位
正治二壬二十歲五十八

五大尊像

五幀

倭錦云高階隆兼筆

賈雄云鎌倉雷岡社僧香藏院所傳有大成徳の
一鋪書續して甚拙なり其餘を真跡絶倫と云へり

全

同書云海田相保筆

横津國住吉神庫

弘法大師像

二幀

東寺御影堂内外陣具足目錄云大師御影二鋪

一鋪後宇多院宸筆畫談義本尊御施入一依有

宸筆損失之恐為二季談義本尊奉模寫之繪師

萬宗法眼筆文字大覺寺二品深寺法親王

展閱目錄東寺條云後宇多院宸翰大師像並贊一

幅

名画拾彙云後宇多帝宸画弘法大師像並贊其

并今在京師東寺

全行狀記

十二卷

好古小錄云画々所預光信詞一卷大覺寺深守
 法親王二卷一條前中納言公膳卿三卷六條中
 將有孝朝臣四五卷後押小路前内大臣公忠六
 卷二條中納言為重卿七卷四辻儀同三司善成
 八卷成就院前大僧正果守九卷灵山僧實巖十
 卷大炊御門三位入道明燈十一卷青蓮院道円
 法親王東寺所傳也余此画ヲ熟視スルニ光信
 ニテハ非ルヘシ其画所預ノ画法ニ非ス按東寺古記ニ私
 法行狀繪應安七年ヨリ康暦元年ニ至テ成就繪所預

大藏少輔行忠繪師采女正名中勢少輔久行定
 河彌名大進法眼名南都繪師祐高法眼名六人
 此画今片拵半葉存セズ惜ベシ
 名画拾彙云繪所預大藏少輔行忠画師采女正
 中勢少輔久行定河彌大進法眼南都画師祐高
 法眼右六員画家共画高野大師行狀自應安七
 年至康暦元年成就云按好古小錄謂此卷今不
 存片拵半葉可惜矣今東寺藏行狀記十一卷其
 書為大覺寺深守法親王青蓮院道円法親王後
 押小路公忠公二條為重卿石山果守僧等應安

中人與小錄所出年代合矣小錄則脫書人之名
東寺所傳亦失画師名但行忠不見画系而巨勢
系圖有久未子有行忠或是人然未知巨勢氏為
繪所預例矣

遠碧軒記云大師一生ノ間繪縁起十二卷繪ハ
土佐光信ト云傳レ氏夫ヨリハ位アリ、其内
二卷ハ別ノ筆トシ工詞書ハ其時代ノ堂上方
ノ衆ノヨリ合門跡ノ手モアリ箱ハ後光明院
ノ御寄進

元幹云近年高野山印本出来と聞とも未見ま生東寺十輪院の刻
本世上に流布せり甚悪本有り十二卷を合せて六卷とせり十二卷

左い有り依事子や

春村云此書十二卷正一の依へし十依故を無名氏永正十七年記云
閏六月廿九日登山自東寺大師繪十二卷無御目之間令登山可拝見
欣之由自水本被示り依僧正御房令登山而於御前拜見之詞水本
被読り又見聞雜記文明二年八月四日條子錢御道具上醍醐より當
時西院へ被返り朱唐櫃一合本尊相合一七祖五天尊一兩界四鋪十
二卷ノ繪年預宗壽云と依依をた依此見聞親記も東寺の日記
有依事文中は往々徴ありは十二卷と依依もま生行狀記有依事

疑有

躬行梅小錄所載の詞書の筆者應安康曆間の人有り光信を永
正大永中を経て文明十二年九十才卒を倭錦にも載る年代頗後
たきと寺傳は光信とせしを誤りて此行狀繪を行忠等の六名書は
深守法親王以下十員一但十二卷の筆者を脱せし有依り疑ふ
二片楷半葉を存せしと依依は疎漏有り卷数も小錄拾遺ホ
とを誤りて東寺御影堂具足目六子大師行狀繪十二卷有目
録と記し現存を依處十二卷有依を亦梅子拾遺子小錄を書人
の名を脱せしと依依は然らば波書は書手十員を載せし事亦文
に載る如く拾遺に在りて善成公勝は有孝朝巨道明燈僧
實巖ホの五名を減せりまた巨勢氏画所預子補せられ例を
あれと公忠公望弘高で来行忠り父志岐守有久に至依まで代繪所長

者子補さられは異稱同哉るん
又蓮華定院此本あり

合

好古小錄云新寫画工姓名不見詞公卿集書外
發持明院基雄卿

全行狀圖画

六卷

画越前守行光詞後深心院関白道嗣公

目錄第一卷

大師誕生 幼雅搥戲 四王執蓋 誓願捨身
明敏画学 聞持受法 出家受戒 明星入口

第二卷

天狗降伏 我拜师山 魔事品 久米寺東塔心柱

大師入唐 入唐着岸 入唐入海 五筆和尚号

虚空書字

第三卷

渡天礼拜釈尊 大師入壇 珍賀怨念 守敏遺謀法

道具相傳 惠果入滅 惠果影現 大師擲

第四卷

帰朝上表 大師参詣御席 高雄灌頂 西帝灌頂

高野尋入 巡見上表 丹生託宣 三銘宝剣

大塔建立

第五卷

秘鍵開題 推者自稱 守敏降伏 大峯修行

久米寺講經 神泉苑 東寺初給 稻荷契約

第六卷

宗論 仁王經法 後七日法 門徒雅訓

入空留身 唯我喪禮 高野玲瑞 大師号

倭錦云高野山弘法緣起繪越前守行光

紀伊国名所圖會 三編卷六 云繪筆者未詳詞近衛道

嗣公

此是高野山生院谷地藏院所藏と云ふ按道嗣公至徳四年三月十七日五十六歳薨也其行光更文中の人方れば時代ハ合ハリ

全 殘欠一卷

倭錦云虫越前守光顯

土佐系圖云光顯 号土佐正男 元徳年中画弘法大師

傳画在家 此卷詞書古筆了意望して二條為定卿と云ふ近時躬行并弁を

全 殘欠

倭錦云巨勢有康筆

全 殘欠一卷

武蔵国豊嶋郡若一王子金輪寺什集殘款為一

卷 失画 五名

全 緣起 二卷

繪飛禪守光秀詞世尊寺行平卿

躬行云此卷灌頂空海僧位有とむねと
滅後の事跡を識し、趣子見申

金剛定寺縁起 一卷

画工姓名不傳詞書尊道親王塙忠室所藏

倭錦云繪豊後法橋

貫雄云此繪二卷也、此画を京都將軍けりちあらむ又近時古筆を
伴於浪華得三卷塙氏のものと同乎子出初め小十五筆和尚と題さ
り蓋空齋僧都の行状あり

粉川寺縁起

紀伊国名所國會云繪鳥羽僧正詞経朝卿

倭錦云刑部大輔光長筆

春村云此画一卷塙殿ありて天福二年画傳の事跡を載たまを鳥羽僧
正の画子は、塙忠室所藏古本繪あり、奥書四本云應永十九
年十一月十三日依法水院僧都長義所望於三條坊門室町扇屋書寫
之本者、勘解由小路三位行俊手跡也、明徳四年依願主勘解由小路入
道義將帥詔云、長祿二年戊寅八月三日書之とあり、
貫雄云近時水野越前守殿令十田直模寫原本二卷繪光長詞雅経
卿

躬行按、鳥羽僧正覺猷を保延六年九月十五日八十八文に叙し、光長
は、兼忠三年の壬海に繪師光長と云、飛鳥井雅経卿は、兼久三年三
月十一日五十二文、亮おらぬ天福已生人し也、然依、此卷天福二年の
事跡を記し、名は光長、雅経卿と名、依とも、有、自、年、序、不、合、あり、
但、世、尊、寺、経、朝、に、建、治、二、月、二、日、亮、を、ら、き、て、波、僧、正、は、い、ま、く、後
を、た、り、又、稿、本、に、い、え、き、依、世、尊、寺、行、後、卿、は、應、永、十、四、年、十、月、十、日
亮、お、り、亦、云、此、縁、起、今、本、寺、子、傳、依、此、一、卷、あり、て、卷、子、の、上、下、直、き、たり、
官、庫、粉、本、二、種、各、一、卷、其、詞、書、畠、山、午、庵、堂、し、て、卜、部、兼、好、と、し、り、是
非、を、い、ら、ん、續、類、後、八、百、十、九、収、此、詞

興福寺維摩會繪詞 一卷

画匠姓名佚

真書云右繪之詞光嚴院之宸翰無疑昭者也推
大納言光廣謹記之

國河上人繪傳 十一卷

親長卿記文明十九年九月三日云參詣聖山聽聞日中國

阿上人御影等持見不緣起本紛失

躬行云山城名勝志卷十四東山灵山寺條云國河上人繪傳とて正画の額はヤ野通凡の筆詠佛前は麻繪西界の曼陀羅と因信の筆なり此所のまことと云ふは子引出生まると画に左志られぬと繪傳を成すに依り詞書は親長卿等當時公卿參集書を成へくおしるるなり

子嶋真僧都像 一幀

倭錦云十島先德僧都像芝觀深画贊興福寺僧
正經覺

名画拾彙云芝三河法眼觀深南都繪佛師也曾

見所画子嶋真興僧都肖像贊大乘院經覺大僧

正筆也經覺僧正權中納言
經年卿三男

興福寺圖 一卷

國朝書目載之

小柴垣雙紙 一卷或称灌頂卷

柙庵隨筆云出家卿画書一筆

画圖品類云画信実朝臣詞書家卿

倭錦云小柴垣草子繪慶筆

十訓抄三卷云寛和齋宮花山野宮子おはし家子公役瀧

白平致光とやひひはるのそ生ち終ひて群行も
なくてまぢれ終ひり夫より野れみやの公役はとま
りまゆり

貫雄云押庵随筆品類ホの説生詞書慈鎮和尚と在はるの巻く
非有り画と慶恩詞を久我通光卿を是とまへし此巻真跡天保年間吉兼
子伴幕府子献を後回録にあひて鳥有とありぬ
躬行按子通具卿ハ尊卑分脈正二位大納言土御門内府通親卿男と
ありて元久の新古今集撰者のくちなるは慶恩を建仁頃と不
説まられし同時の人とすへし然とも住吉法眼の殿歴まぢり
みりて諸説一定非れ已に灌頂表の下まじりなり記内て此巻は十
訓抄も記し野宮のひめことなほ本巻の未も寛和二年
六月十九日伊勢の御くらりともまうて野の宮よりかへらせ
きまひひりともいえまぢり

全 異本一卷

押庵随筆云小紫垣異本豊橋法橋画品類同之

全 一卷

画土佐光則詞持明院基時卿其画大同小異也

躬行按子正三位基時卿は元録十七年三月十日七十九才薨り
源左衛門尉光則は寛永十五年正月十九日死す然るハ書画の干支
將して合
らまぢり

全 牛十画 一卷

好古小録云余古本ヲ得テ紀國南老人ニ贈ル其後
世上ニ模本出来シリ延慶中ノ物ニメ余ヲ以
見ル先輩曾テ不知モノ也

隨意録云江都麴街紀公邸第一堂有称十牛云
今茲壬午春見画牛十画々牛其角可形相皆

殊而且記其出所卷亦云延慶三年五月十日余
河本牧童寧直磨記之

躬行云世子十牛圖といへ家毛のありそは禪家陪人の地位を平
此の譬喩よりして禪客の作所終にあり名画拾遺集に西三種を載
せたり國牛圖とを素より関らざるは
おまひ混ぬるらん

古莖圖 一卷

画図品類云葬送古圖一卷神祇官白川家所傳

躬行云今此圖をいふは近く造して名をうたふ家よりしもの
て棺擲の制衣をはりの鼓角幡楯冠帽衣履に至るまでいと採
取ハチ毛のなしをべり無智の憶説論を家子足らる後人惑ふ
るものれ蓋識者ハ目瞭然とる言をた内は然し

古尺圖 一卷

画図品目載之

古鈴圖 一卷

同書載之

古代染草圖 一卷

同書載之



Blank lined page with vertical blue lines and a blue border. Faint vertical text is visible on the left side of the page, including the characters "中國郵政" (China Post).

